

2017年度 高大連携 プログラム

高校と大学の
接続を目指して



Hokusei Gakuen University

北星学園大学

北星学園大学短期大学部



北 星 学 園 大 学

北星学園大学短期大学部

高大連携プログラム

高校や大学は、少子高齢社会という大きな社会変動の中で揺れ動いています。国公立か私立かを問わず、競争と選別という時代の空気の中で、各学校はその特色をどのように打ち出すかを迫られ、多様な試みがなされています。特に注目され、普及してきているものに、「高大連携」の試みがあります。この考え方には、「高大連携」・「高大接続」・「高大一貫」といった考え方が含まれています。中高一貫の考え方を加えれば、6・3・3・4制をもっと流動的・連続的に捉えようとするものになります。

社会に開かれた大学を標榜する北星学園大学は、この高大連携の考え方を「高大連携プログラム」と名づけており、ここには次の二つの理念が含まれています。

一つ目は、「社会に開かれた大学」としての社会貢献の考え方です。「知と技の資源池」としての大学は、その持てる知と技を積極的に社会に提供していくことによって社会的責任を果たすことが期待されています。

二つ目は、次代の大学生たる高校生に、「学び・研究する」ことの喜びの予感を提供することによって、自己の力と志向に基づいた大学の選択が可能になり、大学の教育との相乗的な効果を期待できます。

以上の二つの理念を懷いた「高大連携プログラム」へお誘いいたします。

高大ブリッジ講義(出張講義)

そうした大きな人生の選択を、カタログの中の数字だけで決めてしまってもよいのでしょうか。少なくとも4年という短くはない時間をかけて自らの学びを成就させることとなる「大学」とは、はたしてどういうところなのか。実際に施設・設備を自らの目で確かめ、そこで提供されるプログラムを体験し、既にそこで学びを進めている者の話を聞く、そうした機会も、北星学園大学は積極的に提供してまいりました。

 **お申込み方法** … 希望の講義をお選び頂き、巻末の申込用紙にご記入の上、FAXでお申し込みください。

申込用紙: 複数の講義をお申込みの場合は、お手数ですが、申込用紙をコピーしてご利用ください。

留意事項: ①ご希望の日時について、担当教員との調整が必要な場合もございます。ご了承ください。

②担当教員の職務の都合上、ご希望に沿えない場合もございますので、複数の教員についてご希望をお示しいただければ幸いです。

③派遣に係る費用は、全て北星学園大学が負担します。

④毎週水曜日午後は、本学校務(会議等)を原則として優先させて頂きますので、派遣できない場合もございます。

⑤下記の担当者は、ゼミ形式の授業にも対応できますので、ご希望される場合、申し込みの際にその旨お知らせください。

①の担当者は ア、45分～50分授業を1コマ
イ、45分～50分授業×2コマ続き、のどちらかを選択できます。

※なお、ゼミ形式の場合、内容が変更となる場合がございますので、ご承知おきください。

大学の授業は主に講義形式とゼミ形式に分けられます。

1

Index

心理コミュニケーション

講義番号

テーマ

担当者名

1	人が人を好きになるメカニズム
2	プレッシャーとリラックス(スポーツ心理学)
3	心理学は世界を救えるか? ～心理主義化する社会を考える～
4	心理学から映画を見よう ～物語を支えるキャラクターたち～
5	高齢者ケアの心理学 ～高齢者心理における心理学の役割～
6	災害支援の心理学
7	手品と情報のフシギな関係 ～スプーン曲げからメディアを考える～
8	正しい報道って何だろう ～ジャーナリズム倫理を考える～
9	「病い」「疾患」「病気」の違いは? ～医療コミュニケーション入門～
10	「コミュカ」を科学する ～ヒューマン・エラーの認知心理学からみたコミュニケーション能力とは?～
11	「コミュカ」を科学する ～音楽心理学からみたコミュニケーションとは～
12	他者を理解する ～コミュニケーションの基盤～
13	「心」とは何か? ～「心」の由来を考える～
14	「まちがい」から探る心の働き
15	心理学から見た「私」の作られ方
16	臨床心理士の仕事から臨床心理学を考える ～大学で学ぶ臨床心理学と職業のつながり～
17	心へのアプローチ ～大学で学ぶ心理学～
18	こころ+脳+からだ=わたし
19	あなたは〇〇を信じますか? ～信じる心の科学～
20	心理療法体験 ～描画療法とリラクゼーション法でストレス解消!～
21	生活の中の心理学

濱 保久
養内 豊
田辺 毅彦
阪井 宏
大島寿美子
後藤 靖宏
石川 悟
柴田 利男
牧田 浩一
眞嶋 良全
佐藤 祐基
中村 浩

語学・文化

22	異文化コミュニケーション入門
23	動物の交信と言語
24	英語の発音法
25	アメリカ演劇の楽しみ ～ブロードウェイミュージカルとアメリカ文化～
26	外国語(英語)習得を「科学」する ～習得の個人差はなぜ生まれるのか～
27	「公園で走る」と「公園を走る」はどう違う? ～外国人に対する日本語教育入門～
28	世界で使われている英語とは? ～「共通語としての英語」という見方～
29	「若い人ほど外国語習得ははやい」は本当? ～外国語学習の「神話」に迫る～
30	英語を話せる力とは
31	英語を英語らしく話そう!
32	色々な英語の教え方
33	いろいろな英語の教え方・学び方
34	『マザー・グースの唄』を楽しみましょう!
35	文学の授業で学べること
36	比較文化入門
37	言葉と文化
38	英文をスキルで捉える
39	心に染みる英文を読む
40	英語の発音とスペリングの関係、語彙の多様性
41	通訳者、通訳ガイドの仕事とは
42	中国語に親しもう!
43	中国古典文学<萌え>の世界
44	中国の妖怪・不思議な話
45	海外スタディツアーへの誘い ～プロジェクト型海外研修～
46	ことばのフィールドワーク入門
47	世界一周ことばの旅
48	文法の世界:日本語と外国語は何か違う?
49	確実に伝えるための説明の技術
50	日本語ウォッチングで街を行こう
51	考える/分かりあう ための論理トレーニング
52	退屈な芸術?:古い彫刻を見る
53	見せ方ひとつでこんなに違う!ビジュアルコミュニケーションの基本
54	モンゴル遊牧民の暮らしと食べ物

長谷川典子
J.W.ラケット
高橋 克依
高野 照司
柳町 智治
江口 均
島田 桂子
斎藤 彩世
坂内 正
竹村 雅史
白鳥 金吾
田中 直子
山本 範子
西原 明希
松浦 年男
田村 早苗
遠藤 太郎
川部 大輔
風戸 真理

福祉

55	スローライフとコミュニティレストラン
56	はじめてのNPO
57	外国からみた日本の若者
58	豊かな国でなぜ子供の貧困率が高いか
59	「高齢者福祉」の学習・体験によって広がる将来の進路選択!
60	日本の医療…どうなっているの?これからどうなるの?
61	福祉実践を支える思想 ～ノーマライゼーションから今日まで～
62	高校生にもできる地域福祉活動の担い手! ～何ができるだろうか!?～
63	社会福祉からの地域社会へのアプローチ ～災害から命を救う地域社会を目指して～
64	社会と社会福祉
65	日本がこんなに少子化になわけ、その理由はこれ!
66	初心者のための社会保障 ～年金・医療・介護の未来はどうなる?～
67	社会福祉からみる幸福論 ～幸せのための基礎的条件～
68	子ども・若者を取り巻く福祉問題 ～教育と雇用から～
69	障害者福祉の考え方
70	「自閉スペクトラム症」ってご存知ですか?
71	福祉の仕事と大学での学び ～障害児の療育相談を例に～
72	こころの病(精神疾患)を理解する
73	少子高齢化×人口減少=日本の将来 ～どんな地域になるの?どう生活するの?～
74	障害について知っていますか? ～50人に1人の確率～
75	障害(がい)のある人とともに作る社会とは?
76	体力向上と日常生活習慣
77	ケアすること されること
78	子どもは誰のもの?

杉岡 直人
K.U.ネンシュティール
安部 雅仁
岡田 直人
佐橋 克彦
伊藤新一郎
田中耕一郎
西田 充潔
永井 順子
畑 亮輔
田実 潔
星野 宏司
藤原 里佐

Index

福祉

経済

法律

国際関係

教育

情報

その他

講義番号	テーマ	担当者名
79	福祉臨床(ソーシャルワーク)とは、何をすることか?	中村 和彦
80	精神に障害を抱えた人を、理解するには?	
81	日本経済の160年	平井 廣一
82	日中経済の100年	
83	サキヨミの経済学 ～ゲーム論と美人投票～	勝村 務
84	オリンピックを文化経済学で考える ～スポーツの文化経済学～	
85	人類はたった1秒で地球を破壊した ～地球崩壊のシナリオ～	野原 克仁
86	同じ大地につながる生き物たちの悲鳴	
87	地球が抱える問題に、環境経済学ができること	楠木 敦
88	経済学史入門	
89	企業の不祥事と社会的責任	山口 博教
90	金融詐欺は何故なくならないのか	
91	キミにもできる会計の発想 ～「金持ち父さん貧乏父さん」の教え～	大原 昌明
92	会計はあなたを救う! ～どんな組織でも必要とされる会計知識～	
93	「さおだけ屋」と「食い逃げ」から考える会計の話	鈴木 克典
94	牛丼とハンバーガー、どちらがお好き ～経営と会計の味な話～	
95	あなたの知らない世界 ～職業と会計～	林 秀彦
96	コンビニを通して、購買心理と店内の工夫を探る	
97	コンビニ大解剖! ～商品と歴史について探る～	多田 和美
98	人の移動とお店の立地の関係について探る	
99	私たちの生活に優しいユニバーサルデザイン	黄 雅雯
100	欧州における交通まちづくり・マネジメント	
101	サービス科学と情報技術	鎌田 直矢
102	海外のメイド・イン・ジャパン ～日本企業の国際ビジネス～	
103	コカ・コーラ vs. ペプシコーラ ～日本の清涼飲料市場における競争～	増田 辰良
104	「日本マクドナルドvs. モスバーガー」に学ぶ経営戦略	
105	「LINE」に学ぶビジネスモデル	秋森 弘
106	クイズで学ぶヒット商品とヒットの仕組み	
107	家電リサイクル法と経済学	上口 晃
108	コースの定理: 法律学と経済学との接点	
109	「金融政策のしくみ」入門	山邑 紘史
110	「お金」になりうるモノとは	
111	経済問題について考えてみよう	篠田 優
112	経済学を実験する	
113	契約・法・北方領土	岩本 一郎
114	犬の権利と猫の義務	
115	あなたは覗かれている ～プライバシーの危機～	足立 清人
116	デザイン・ベビー ～魔法か、それとも悪魔の技術か?～	
117	家族における男女の平等	長屋 幸世
118	18歳の選挙権	
119	親子とは何か ～民法から考える。	伊東 尚美
120	契約法入門 ～ローマ法編～	
121	契約書を作ってみよう!	竹田 恒規
122	お金の貸し借りについて・初級編	
123	お金の貸し借りについて・上級編(金融機関とのやりとり)	溝口 雅明
124	卒業後の生活を考えてみましょう!	
125	小学生に法を教えるとしたら…	野本 啓介
126	ネゴシエーションを体験しよう	
127	お金がない!	高橋 孝三
128	株式会社のしくみ	
129	高校世界史から法律学への架け橋	片岡 徹
130	法は美しい街づくりの手助けになるのか?	
131	家族をめぐるお金と法律問題の常識非常識	浦野真理子
132	平和構築とは何か	
133	アメリカ留学と学生生活	野本 啓介
134	世界の子どもの現状 ～私たちに何が出来るのか～	
135	平和学入門 ～「戦争の世紀」から「平和の世紀」とするために～	高橋 孝三
136	世界の平和学のバイオニア ～米國マンチェスター大学について～	
137	紛争解決学入門 ～紛争現場の経験から学ぶ学問～	片岡 徹
138	地球的に考えて地域で行動する(Think Globally, Act Locally)ために	
139	身近なものから日本と東南アジアの関係を考える	浦野真理子
140	教育学入門 ～子どもから大人まで、人の育ちを考える学問の魅力～	
141	「大学の学び」の基礎となる「高校の学び」 ～知識を身につける大切さ～	片岡 徹
142	大学で学ぶ意味: 社会科学をととして社会の仕組み・つながりを理解する	
143	大学教育とは何か?	野本 啓介
144	若者が大人になるには ～成長への道筋と夢ある進路決断のために～	
145	「平和」とは何か。 ～平和を築くために、私たちにできること～	楠木 敦
146	教育におけるテクノロジーの役割: 未来の学校はどうなる?	
147	先生のおしごと(教職入門)	高杉 巴彦
148	eラーニングシステムを使った学習体験	
149	インターネットと私たちの生活 ～ソーシャルメディアによる新しい「つながり」～	金子 大輔
150	ピョンチャン冬季オリンピックのもう一つの楽しみ方	
151	困難を乗り越えて生きること ～がん体験者が教えてくれるいのちと人生～	星野 宏司
152	地球温暖化と過去の気候変動	
		大島寿美子
		高橋 孝三

講義の展開について

- ① 講義は45～50分程度を予定しておりますが、とくにご希望があればお知らせください。
- ② 1回完結の講義だけではなく、複数回にわたって展開するもの、オムニバス形式のものなどについて、ご希望がございましたらご相談ください。
- ③ 受講人数には、原則として、制限はございません。少人数でも承ります。
- ④ 講義の内容や、実施形態などについてご希望があれば、ぜひお知らせください。
- ⑤ 掲載されていないテーマにつきましても、ご希望があればお知らせください。
- ⑥ 講義終了後、受講生の皆様の感想をお知らせ頂ければ幸いです。

心理コミュニケーション

1 人が人を好きになるメカニズム

濱 保久 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

人が人を好きになるのは単純な仕組みではありませんが、この講義の中ではどんな時に人を好きになってしまうのかを説明します。普通の常識で考えられている方向とは逆の方向にも心の動きがあることを理解してください。

2 プレッシャーとリラックス (スポーツ心理学)

蓑内 豊 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

スポーツ場面に限らず、パフォーマンスを最大限に発揮するには自分自身の精神状態をコントロールすることが必要です。この講義では、パフォーマンスの発揮に関連する心理的要因と対処について、特にプレッシャーとリラックスの観点から説明します。また、プレッシャーやリラックスのコントロール方法について、スポーツメンタルトレーニングの技法を紹介しながら、実際に体験してみます。

3 心理学は世界を救えるか？

～心理主義化する社会を考える～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

ご存知のように、最近では、心理テストなどを使った自己診断や、さまざまな心のトラブルをめぐるTVドラマや映画などに関心が集まっています。そのせいか、カウンセラーなどを始めとする心理臨床職は非常に人気が高い職業となっていて、「トラウマ」や「アダルト・チルドレン」といった言葉は日常会話の中でも普通に使われるようになってきました。でも、このように、何でもかんでも心理学的に社会や人間を理解して、心理学的知識を使えば、世の中はよくなるのでしょうか？我々は幸せになれるのでしょうか？心理学のもたらしたさまざまな問題を考え、その知識をうまく使う方法について考え直してみたいと思います。

4 心理学から映画を見よう

～物語を支えるキャラクターたち～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

毎年、数多くの映画が公開されていますが、人間ドラマだけでなく、アクション、SF、アニメなどさまざまな作品の物語世界を、心理学から読み解いていくと、ふだんと違った楽しみ方ができ、これまで気づかなかった人間関係の視点が得られるかもしれません。

具体的には「スターウォーズ」や「指輪物語」といった人気作品や少しマイナーな映画作品も紹介しながら、これらの作品を題材にして、物語と登場人物たちの相互の役割などを通して、映画の中で繰り広げられる心理学的宇宙について分析し、また、この知識が日常生活へも応用できないか、一緒に考えてみたいと思います。

5 高齢者ケアの心理学

～高齢者心理における心理学の役割～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

日本が高齢社会に突入してから10年近くが経ち、高齢者を支援するさまざまな施設が数多く作られるようになってきましたが、年を取って、身体が不自由になったり、認知症が始まったりしても、若くて健康な世代にとっては、その身体的な不自由さや心理的な不安がなかなか理解できないものです。

この講義においては、高齢者福祉の現状を紹介する中で、高齢者をケアするために心理学に何ができるのか、どうしたら、施設の利用者だけでなく、現場で働く介護スタッフがより快適に過ごすことができるのか、みなさんと共に考えていきたいと思います。

6 災害支援の心理学

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

2011年に未曾有の被害を出した東日本大震災では、東北地域を始めとする広範な地域において地震や津波だけではなく、原発事故による放射能被害も含め、未だに十分な復旧ができていないのが現状です。しかしながら、人類は、これまで数多くの自然災害を経験してきました。その中で、被災した人々を襲うPTSDを始めとする心理的な問題とはどのようなものなのか、このような問題を克服するためにはどうしたらよいのかを考えてみたいと思います。

7 手品と情報のフシギな関係

～スプーン曲げからメディアを考える～

阪井 宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

あふれるほどのマスコミ情報に囲まれて暮らす私たち。いったいどの情報を、どう取捨選択してよいのか、迷ってしまうことはありませんか。

実は私も、情報の大洪水の中で七転八倒している1人です。大学の研究室は新聞、雑誌、本、映像資料の山、また山。地震がきたらどうしよう、と途方にくれつつ、資料は年々増える一方です。

すさまじい情報の海でおぼれないために、私たちはどうしたらいいのでしょうか。このところ人気のお部屋掃除の達人に、「情報掃除」を頼む？ いっそのこと、情報をすべて遮断して「孤高の世界」にひきこもる？ 簡単なマジック（特訓中です）を手がかりに、情報過多の時代の生き方を一緒に考えましょう。

8

正しい報道って何だろう

～ジャーナリズム倫理を考える～

阪井 宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

最近のテレビや新聞の報道、ちょっとおかしくない？ そんな不信感が募っている人、いませんか。東日本大震災の被災地で、取材ヘリはなぜ人命救助をしなかったんだろう。事件の被害者のもとへ行って、傷ついた人になぜマイクを向けられるのだろう。

このような「なぜ」に、マスコミはこれまできちんと答えてきませんでした。そんな理由を市民が知る必要はない、と思ってきたのでしょうか。でもその姿勢が近年の報道不信を生んでしまっているのです。

報道の「なぜ」を知ることは、情報の賢い使い手になるための第一歩です。世の中で起こるさまざまな報道事例をもとに、ジャーナリズム倫理について一緒に考えてみましょう。

12

他者を理解する

～コミュニケーションの基盤～

石川 悟 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

皆さんが何気なく使っている「人間」という言葉には、ヒトという動物が生きていく状況が良く表されています。「人」の「間」で生活する私達は、他者なしでは生きることができません。一方で助けとなるはずの他者が、私達に苦しみをもたらすこともあります。そんな他者とのやり取りには、他者を理解する能力が不可欠です。

相手とやり取りを重ねていく場面において、他者を理解するとはどのようなことなのか、心理学の中で明らかになっていることを紹介しながら、他者とのつきあい方／向き合い方を考えてみたいと思います。

9

「病い」「疾患」「病気」の違いは？

～医療コミュニケーション入門～

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

「病い」「疾患」「病気」はどこが違うのでしょうか？この講義では医療コミュニケーションの立場から、患者・医療者関係や、患者の世界・医療者の世界、医療と文化について考えます。

13

「心」とは何か？

～「心」の由来を考える～

石川 悟 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

私達はいつも「心」を感じながら日常生活を送っています。ではこの「心」と呼ばれるもの、呼んでいるものの正体は何でしょうか？「心」の存在を実感するのは特にどんなときでしょう？見ることも触ることも難しい「心」ですが、でも確かに「在る」と感じられる瞬間があります。

この講義では、「心」の存在が実感できる状況を紐解きながら、私達が普段何気なく感じている「心」とは何か考えたいと思います。同時にヒト以外の生き物にも目を向けて、この「心」がどのように私達ヒトのもとにやってきたのかについても考えを広げていきます。

10

“コミュカ”を科学する

～ヒューマン・エラーの認知心理学からみたコミュニケーション能力とは？～

後藤 靖宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

「先生について“お母さん！”と呼びかけてしまった」、「『ごめんね』と書こうとして『ごめんな』と偉そうなメールになってしまった」、「携帯だと思ってテレビのリモコンを持ってきてしまった」etc....

誰にでもあるこのような体験は、実は「ヒューマン・エラー」と呼ばれる心理学の重要な研究テーマです。この程度なら笑い話で済みますが、人間関係や生死に関わるような問題となると、ことは重大です。

この講義では、このところとみにその重要性が認識されてきた“コミュニケーション能力”について、ヒューマン・エラーの認知心理学の視点から考えてみます。ネットや携帯電話の発達で急速にその形が変わってきたと言われる「コミュニケーション」について知り、友達、親子、恋人、そして自分自身を理解する一助にしましょう。

※10月以降開講予定

14

‘まちがい’から探る心の働き

柴田 利男 (社会福祉学部福祉心理学科教授)

見まちがい、聞きまちがい、記憶ちがい、思いちがい、かんちがいは、なぜ起きるのか？日常経験する‘まちがい’の事例から、人はなぜ‘まちがう’のか、‘まちがい’を引き起こす心の働きとはどのようなものか、まちがえない正しい心の働きとは何か、について考えます。

※10月以降開講予定

11

“コミュカ”を科学する

～音楽心理学からみたコミュニケーションとは～

後藤 靖宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

朝起きてテレビをつけ、通学中に iPod を聴き、授業が終わったらカラオケに行って、休日には好きなアーティストのライブを楽しむ...。このように考えてみると、僕たちの日常生活には音楽が溢れていることに気がきます。あまりにも当たり前のことなので普段あまり意識しませんが、意識しないからこそ、音楽との関わり方を知ることが重要なのです。

“コミュカ”について科学的に考えるとき、音楽とのこうした関わりも重要な要素になってきます。

音楽を科学的に捉えることで、いかに僕たちが音楽によるコミュニケーションに助けられているかが分かるでしょう。なぜ音楽に好き嫌いがあるのか、どうすればイベントや映像／放送作品で音楽を効果的に使えるようになるのか、勉強に音楽を有効活用するには？等々、面白いテーマにつながる「音楽とコミュニケーション」について考えてみましょう。

15

心理学から見た「私」の作られ方

柴田 利男 (社会福祉学部福祉心理学科教授)

「自分のことは自分がいっぱい良くわかっている」と思っていたり、「誰も私の気持ちをわかってくれない」と悩んだりしませんか？「自分で決めたことには最後まで責任を持って」と言われたことはありませんか？また、「あいつは何を考えているのかわからない」「あの人の気持ちが理解できない」と、友だちや恋人が信じられなくなることはありませんか？「私」は「私」のことを本当に知っているのか？これが講義のテーマです。「自分」「私」というものは、そもそも何なのか、どのようにして作られるのかについて心理学の立場から考えてみます。

心理 コミュニケーション

16 臨床心理士の仕事から臨床心理学を考える ～大学で学ぶ臨床心理学と職業のつながり～

牧田 浩一 (社会福祉学部福祉心理学科准教授)

近年、臨床心理士の仕事は、さまざまな分野に拡がりをもった職業となってきました。たとえば、医療では精神科や小児科など病院で、教育ではスクールカウンセラーや教育相談員として、司法では法務教官として少年の心理的な状況のアセスメントなどを担っています。最近では、東日本大震災に際して、「東日本大震災心理支援センター」が立ち上げられ、国民の心の健康に寄与すべく活動しています。

本講義では、臨床心理士の仕事を紹介しつつ臨床心理学という学問の特徴について講義を行います。

20 心理療法体験 ～描画療法とリラクゼーション法でストレス解消!～

佐藤 祐基 (社会福祉学部福祉心理学科専任講師)

スクールカウンセリングや心理相談室の現場では、どのような心理療法が行われているのでしょうか。

この講義では、一般には、知られることのない心理療法の世界を体験してもらいます。子どもから大人まで楽しめる「スクイグル法」という描画療法と、身体を使った「筋弛緩法」というリラクゼーション法を実施します。心理療法の前後に、ストレスの得点を測定して、心理療法の効果について実験的に検証してみたいと思います。

17 心へのアプローチ ～大学で学ぶ心理学～

牧田 浩一 (社会福祉学部福祉心理学科准教授)

心は目にも見えないし、形があるものでもありません。そのような心をどのようにしたら知ることができるのでしょうか。

「心理学」は、学問としての歴史は他の学問領域に比べて浅い学問です。今日の「心理学」は、19世紀後半から始まりました。同時に2つの流れが生まれました。心を「物理学」を模範にして捉えようとした流れと心を病んだ患者さんへの実際の手助けから生まれた流れです。

本講義では、「心理学」がどのようにして、目にも見えない形もない「こころ」を捉えようとしたのかをテーマとして考えています。

21 生活の中の心理学

中村 浩 (短期大学部生活創造学科教授)

知らず知らずの内にしている私たちの行動には、さまざまな心理学的ルールが隠されています。例えば、動いているものを見た時、私たちは瞬時にそれが生きているものか、ただの物体なのかを見分けることができますが、それは何故でしょう。また、赤ちゃんにおっぱいを飲ませている母親はなぜ赤ちゃんを揺らすのでしょうか。陸上競技のトラック競技ではすべて反時計回りに走りますが、それは何故でしょう。このような日常生活に見られるさまざまなことについて、一緒に考えてみたいと思います。

18 こころ+脳+からだ=わたし

眞嶋 良全 (社会福祉学部福祉心理学科准教授)

17世紀の哲学者ルネ・デカルトは、心と体は別物であるとする「心身二元論」を唱えましたが、現代科学では人の心は脳にあり、脳と心は分けることが難しいのが常識とされています。では、人の心は脳の働きだけで成り立つのでしょうか? 「病は気から」「健全な精神は健全な肉体に宿る」などのことわざが示すように、心(脳)と体は密接な関係にあり、近年の研究では、(比較的低次の)身体感覚が、(より高次の)さまざまな思考・判断に影響することもわかってきています。この講義では、人の心と身体の間にある、「え?ホント?」と言いたくなるような意外な関係について実例を交えて考えてみたいと思います。

語学・文化

22 異文化コミュニケーション入門

長谷川 典子 (文学部英文学科教授)

英語ができれば国際人になれる... と誤解していませんか? この講義では異文化間で起こる誤解やすれ違いの例をもとにしながら、異文化の人々とのコミュニケーションの障壁となる要因について考えてみたいと思います。

受講生の皆さんには講義を通して、自分たちが「普通」や「常識」と考えている行動や考え方が実は日本というフィルターを通して作られたものであること、世界の人々もみな同じように自文化のフィルターを通して世界を見ていることを理解し、言葉や文化の違いを超えて様々な人々が共生している国際社会で橋渡しとして活躍できるような国際人になるために必要なことは何かについて自分なりの答えを出してもらえればと思います。

19 あなたは〇〇を信じますか? ～信じる心の科学～

眞嶋 良全 (社会福祉学部福祉心理学科准教授)

私たちは、日々色々なものを信じたり、あるいは逆に信じずに生活を送っています。何でもかんでも疑ってかかるのも良くはありませんが、一方で信じやすい人は騙されやすい人でもあります。

この講義では、人は、なぜ、どのように信じるかについての心の仕組みを、超常現象や、詐欺などの具体例から考えてみたいと思います。

23 動物の交信と言語

J.W.ラケット (文学部英文学科教授)

Most animals can communicate with members of their own species. Is animal communication the same as human language? In this lecture, we will look at 9 characteristics of communication and then compare animal communication with human language.

ほとんどの動物は同じ種のメンバーとコミュニケーションすることができます。動物のコミュニケーションは、人間と同じでしょうか?

この講義では、コミュニケーションの9の特徴を見て、動物と人間のコミュニケーションを比較してみます。

* This lecture will be presented in English only.

この講義は全て英語で行われます。

24 英語の発音法

J.W.ラケット (文学部英文学科教授)

英語でコミュニケーションをするのにネイティブの発音は必要ではありません。しかし、英語の発音の基本的なスキルを身につけると、相手があなたの英語をより理解します。

この講義の目的は英語の発音の基礎を紹介することです。

Part I : 英語の母音

Part II : 英語の子音

28 世界で使われている英語とは？ ～「共通語としての英語」という見方～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

世界の人口約70億の中で英語を母語とする人はそれほど多くありません。だいたい4億人、世界の人口の約6%にすぎません。現代の国際社会では政治、経済、文化等の分野で英語が共通語となっていますが、そこでは、ネイティブの人の英語ではなく、英語を第二、三言語として使っている人たちの英語が多数派を占めています。インド風の英語や、アラビア語やスペイン語や中国語の影響を受けた英語など、ネイティブでない人々の英語が世界で広く流通しているわけです。このような見方に立つと、私たちが国際社会で他国の人と交流していくために、どのように英語やその学習と向き合っていくべきかということが自ずと見えてきます。

この講義では、「共通語としての英語 (English as a lingua franca)」という視点から、21世紀の英語学習について皆さんといっしょに考えていきます。

25 アメリカ演劇の楽しみ ～ブロードウェイミュージカルとアメリカ文化～

高橋 克依 (文学部英文学科教授)

ミュージカルはアメリカで発達した芸能と言われています。台詞の他に歌やダンスを取り入れた演劇で、20世紀に大いに発展を遂げ、アメリカ演劇を語る際になくてはならないものとなっています。

この講義では、日本でも多くのファンを持つブロードウェイミュージカルをとりあげて、アメリカ演劇の世界の一端にふれていただきます。大都市ニューヨークでミュージカルはどのように演じられているのか、どのように評価されているのか、など、高校生にもわかりやすく話をし、英文学科での講義の一部を体験してもらいたいと思っています。

29 「若い人ほど外国語習得ははやい」は本当？ ～外国語学習の「神話」に迫る～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

外国語学習の分野には科学的根拠のない「神話」がいくつかあります。たとえば、「若い人ほど外国語習得ははやい」ということがよく言われますが、これも「神話」の一つです。言語研究者の間では、むしろ「older is faster」、つまり、「年令が上の人の方が習得のスピードははやい」というのが定説になっています。また、「赤ちゃんがそうであるように、何も意識せずにただCDを聞き流すだけで外国語は習得できる」という教材の広告も見かけますが、これも研究成果に照らすと正しいとは言えません。

この講義では、言語習得についての研究成果を皆さんに紹介しながら、外国語学習をめぐるいくつかの「神話」に迫っていきたいと思います。

※9月以降開講予定

26 外国語(英語)習得を“科学”する ～習得の個人差はなぜ生まれるのか～

高野 照司 (文学部英文学科教授)

日本での英語学習は、(最近始まった小学校での英語学習を除いて)通常、中学入学時(13才)から始まり、ほぼ同じカリキュラムに従って同じ時間数の授業をこなし、高校へと継続されます。しかし、スタート地点が同じで、学習内容や時間数にそれほど大差がないのに、どうしてこれほどまでに習熟度の個人差(英語の得意・不得意)が生まれるのでしょうか。

本講義では、英語学習の個人差が生まれる要因について、「外国語習得理論」に基づいて考えます。グループ討議および発表の時間を設け、参加型の講義にしたいと思います。

30 英語を話せる力とは

江口 均 (文学部英文学科准教授)

英語が話せるようになりたいと思っている日本人はたくさんいます。しかし、英語学習で成功した、と胸を張って言える人はそういません。また、たくさん単語は覚えただけ、話すとなるとダメだという人も多くいます。言葉を話す、人とコミュニケーションを取るというのは単語と文法を知っているだけでは出来ないということです。それでは、日本人にとって英語を話せるようになるためには何を学び、何を出来るようになるべきか、コミュニケーション能力とはどういうことなのかを学んでもらうのが講義の目的です。

※2017年度開講せず、2018年度再開予定

27 「公園で走る」と「公園を走る」はどう違う？ ～外国人に対する日本語教育入門～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

皆さんの中には将来、海外で働きたいと思っている人もいます。外国人に対する日本語教育という仕事は、そうした夢をかなえる一つの方法です。また、日本語を教えることを通して、母語である日本語を見つめ直すことができるのも、日本語教育の魅力です。さて、もし皆さんが外国人から「『公園で走る』と『公園を走る』はどう違うのか」と聞かれたら、どう答えますか。むずかしいですね？日本語を母語として習得した私たちは、日頃、日本語の文法や用法を意識しませんが、日本語教師になったら、こういう質問にも答えられないといけません。

この講義では、私たちが日頃、何気なく使い分けている日本語表現を例として取りあげ、日本語教育の奥深さ、魅力について紹介します。

31 英語を英語らしく話そう！

江口 均 (文学部英文学科准教授)

英語を英語らしく話すということは一つ一つの音の出し方を正確に学び実践するということも大切ですが、文やフレーズを固まりとして捉えることも大切です。また、何となくこんな感じと言うような捉え方も大切です。また、外国語の発音を覚えるには今の自分の殻を打ち破ることも大切です。そのように英語を英語らしく話せるようになるコツを伝授します。

語学・文化

32 色々な英語の教え方

江口 均 (文学部英文学科准教授)

英語の教授法というのは20世紀科学の進歩とともに様々な方法が生まれました。現在の日本でもいろいろな教え方が実践されています。しかし、自分が教えられた方法以外あまり経験するものではありません。教え方の違いはなぜ生まれるのか、その違いで英語に対する認識や技能にどのような違いが出るのか、授業の中で体験しながら考察してもらいます。

36 比較文化入門

坂内 正 (短期大学部英文学科教授)

どんな食べ物を食べて成長したか・どんな食べ物を今食べているかが、その人がどんな価値観をもつ人であるかということに密接な関係がある、とはよく言われることです。同じように、どんな住まいに暮らし・どんな衣服を身に着けているかもまた、その人の生き方の表れであると同時に、その人のこれからの生き方に大きな影響を与えるはずで

『文化』とは暮らし方のこと、という考え方をもとに、さまざまな文化に触れて、自分の立っている場所を再確認する場をいっしょにもちたい、と願っています。

33 いろいろな英語の教え方・学び方

江口 均 (文学部英文学科准教授)

日本人は「英語ができない」とよく言われますが、決して能力がないわけではありません。しかし、教え方、学び方が間違えている、自分にあっていないとすると、できないのも仕方ありません。自分にあった学び方をするには、どういうものがあるのかを知る必要があります。

この講義では、英語教授法、学習法を提示し、様々な方法があるということを知り、これまでの学習法を見直してもらう、ということを目指に行います。

37 言葉と文化

坂内 正 (短期大学部英文学科教授)

それぞれの言語には歴史や伝統に育まれて言語文化が存在しています。文字表記の多様性や外来語の取り入れ方、また『現実』認識に関わるそれぞれの言語文化の違いなど、いったんこの分野に気づくと興味の対象は尽きることがありません。

言葉の由来や意味の移り変わり、さまざまな場面での意外な言葉の使い方などを具体的にとりあげながら、これまでの自分とは違う切り取り方で世界を眺められるようになる、そんな学びの場をいっしょに体験してみたいと願っています。

34 『マザー・グースの唄』を楽しみましょう!

島田 桂子 (文学部英文学科准教授)

『マザー・グースの唄』は、数百年もの長い歴史の中で、親から子へ、子から孫へと歌い継がれてきたイギリスの伝承童謡です。『マザー・グースの唄』は、実はシェイクスピアの作品からビートルズの歌詞に至るまで、幅広く英語文化に影響を与えてきた(文化のゆりかご)なのです。

そんな『マザー・グースの唄』のいくつかを一緒に味わってみませんか? 数え唄や早口ことば、なぞなぞなど、楽しくてちょっぴり不気味な内容の唄を音読しながら、ユーモア溢れるイギリス文化を味わいましょう。

38 英文をスキルで捉える

竹村 雅史 (短期大学部英文学科教授)

英文を深く味わう場合と英文を情報として捉える場合では、自ずとその英文に対するアプローチは異なってきます。英語学習を技能教科として見なせば、そのスキルを高める練習を積むことで、英語をより自分のものにすることができます。

この講義は、初めて目にする英文を Scanning, Skimming, Thinking Skills 等のスキルを実際に使って、英文に対する心構えを養うことを目指します。(主に演習の形式をとります)

35 文学の授業で学べること

斎藤 彩世 (文学部英文学科専任講師)

「文学」と聞くと難しそうだなという印象を持つ人もいるかもしれません。あるいは、価値のないものと考える人もいるかもしれません。でも、私たちは日頃からたくさんの「物語」とかわり、「読む／書く」行為の中で生きています。SNSも、日記も、歌詞も、映画やドラマも、誰かが「書き／読む」「物語」です。文学作品を読み、考えることは、こうした日々の営みの延長線上にあります。私たちが何者かを知り、よりよい人間関係をつくり、ゆたかな人生を送る上で、文学は実はとても大事なもののなのです。本講義では文学の授業で何を読み、何を考え、何を学ぶことができるのかを紹介したいと思います。

39 心に染みる英文を読む

竹村 雅史 (短期大学部英文学科教授)

心に残る英文を読んだことがありますか? 英語を勉強していて良かったと感じる瞬間を皆さんと一緒に味わってみたいと思います。英文講読とは大げさですが、英文をかじった人であれば、どんなでも感動できます。みなさんと一緒に英語を通して心に残る英文を味わってきましょう。

40 英語の発音とスペリングの関係、語彙の多様性

白鳥 金吾 (短期大学部英文学科専任講師)

「なぜ英語は発音どおり書かないのでしょうか?」、「なぜイギリスとアメリカでは同じ意味を表すのに違うスペリングを用いる場合があるのでしょうか?」、「なぜ英語には ask-question-interrogate のように、似た意味なのに違う表現で表す語が多いのでしょうか?」など、英語を学習していると発音とスペリングの関係や、単語の多様性に悩まされることが多くあると思います。

この講義では、「英語の発音とスペリングのずれがどのように起こってきたか」、「英語の単語が他の言語の影響を受けながらどのように増えてきたか」などについて、歴史をさかのぼりながら皆さんといっしょに考えていきます。

44 中国の妖怪・不思議な話

山本 範子 (文学部准教授)

古来中国では、怖い話や不思議な話がたくさんありました。妖怪・化け物・幽霊…。そういったモノを通して、中国の文化を学び、現在に通じる様々なコトについて考えてみましょう。

41 通訳者、通訳ガイドの仕事とは

田中 直子 (短期大学部英文学科専任講師)

近年の日本の国際化と、日本における観光産業の発展に伴い、通訳者と通訳ガイド(案内士)の需要が高まり、同時にこれらの仕事に対する興味、関心を持つ若者が増えています。本講義では、現役の通訳者、通訳ガイドである講師が、これらの仕事の概要についてお話し、通訳者と通訳ガイドそれぞれに求められる技能、知識、資質、心構え、仕事の醍醐味などについて取り上げます。

また、希望があれば大学の通訳の授業で行われている通訳訓練法を取り入れた英語学習を実際に体験してもらいます。

45 海外スタディツアーへの誘い ～プロジェクト型海外研修～

西原 明希 (社会福祉学部准教授)

北星では、学生の興味や専攻に応じて、様々な国や地域、多彩な内容での海外研修が用意されています。その中から今回は、英国への24日間研修へ、皆さんを1時間だけご案内します。北星の学生になりきり、学生がどのようなプロジェクトに参加し、どのように現地と英語で交渉をしながら「自分の会いたい分野の人たちとの交流」をデザインして行くのか、そして実際にどのような24日間を体験できるのか、シミュレーションをしてみましょう。過年度参加した学生たちの活動の様子など、写真やムービーでも紹介したいと思います。きっと皆さんも海外に出てみたくなるはずです。

42 中国語に親しもう!

山本 範子 (文学部准教授)

日本の漢字とは異なる中国語。「新聞」は中国語では「ニュース」の意味です。発音や日中比較などを通して、中国語に触れてみましょう。簡単なあいさつや歌も練習します。

46 ことばのフィールドワーク入門

松浦 年男 (文学部准教授)

フィールドワークは人類学、社会学、言語学など様々な分野で用いられる研究手法です。この講義では教室を使って講師が話者役となり、とある未知の言語に関するフィールドワーク(聞き取り調査)を行います。受講者も単に質問するだけでなく、単語や表現に見られる規則性を探るための様々な作業を行います。そして、最後にはこの「未知の言語」に関してアツと驚く答が待っています。講義が終わる頃にはフィールドワークという作業そのものや、言語の多様性というものについてより理解が深まることでしょう。人文系の学問は机に座って本を読むだけだと思いがちですが、このような体を動かす作業もあるということを学べると幸いです。

43 中国古典文学<萌え>の世界

山本 範子 (文学部准教授)

日本だけでなく、中国も<萌え>があります。古典文学における<萌え>のツボって? 様々な小説を紹介しながら、現代にも通じる中国古典文学の面白さを考えていきます。

47 世界一周ことばの旅

松浦 年男 (文学部准教授)

ある言語を身につけるには長い時間をかける必要がありますが、ちょっと覗くだけなら簡単にできます。この講義では世界で話されている様々な言語の中から3つほど取り上げ、音声、文字、文法について簡単に解説していき、ちょっとした練習問題に挑戦します。もちろんこの講義だけでその外国語を理解することはできませんが、これらの作業の中で日本語との類似点や相違点に注意を向けることによって、言語の多様性や共通性といったものに対する理解を深めると同時に、外国語というものに対するなじみを持てるようになることでしょう。

語学・文化

48 文法の世界: 日本語と外国語は何が違う?

松浦 年男 (文学部准教授)

文法と聞くと難しい用語の説明と思いがちで、思わず耳をふさぎたくなることは多くないでしょうか?しかし、文法とは言葉の基礎を作るもので、どの言葉も持っている基礎的な要素です。また、大きく違うと思うような言語の間でもちょっと視線を変えると似たような性質が見られます。この講義では、多くの人にとって母語である日本語と、なじみ深い外国語(英語、中国語、韓国語など)を比較することで、外国語の学習やより高度な日本語の運用の基礎となる「ことばに対する感覚」を養います。

52 退屈な芸術?:古い彫刻を見る

遠藤 太郎 (短期大学部生活創造学科准教授)

古く、大きな美術館にはたいてい幾つか並んでいる大昔の彫刻達。色鮮やかで美しい絵画と比べ、今ひとつ取っつきにくい全裸や半裸の石像達は、一体、見る人達に何を訴えかけているのでしょうか?どれもこれも似たように見える彫刻達ですが、そのポーズ、表情、身なりを分析していくと、幾つかのパターンを見つけることができます。そして、それらのパターンを通して、時代毎の美意識や社会背景の違いを明らかにすることができます。退屈だった彫刻コーナーを、新しい眼で見直してみませんか?

49 確実に伝えるための説明の技術

松浦 年男 (文学部准教授)

「ねえお昼何食べる?」「今朝なんも食べなかったんだよね。昨日遅くまでバイトでさあ、起きたらもう遅刻かと思っちゃってさ」さて、この会話は「伝わっている」のでしょうか?伝えるということは、日本語に限らず言語を使う上での大切な目的です。多くの場合、何も意識しなくても話せば伝わったような気持ちになりますが、うまく伝わらないという経験は誰もが持っているものだと思います。また、どうすればうまく伝えられるかということはなかなか学校で教わることもないと思います。この講義では、説明に必要な要素は何か、実際の作業を通して考えていき、説明の技術を身につけることを目標にします。

53 見せ方ひとつでこんなに違う! ビジュアルコミュニケーションの基本

川部 大輔 (短期大学部生活創造学科准教授)

グラフィックデザインの目的は見た目をただ格好良くすることではなく、情報を速く・強く伝えるために視覚的な要素を駆使することにあります。ビジュアルコミュニケーション(視覚伝達)の基本がわかれば、自分が伝えたいメッセージがメディア(媒体)を通して相手により的確に届くようになります。具体例を見ていながら、「伝わるデザイン」とはどのようなものか考えてみましょう。

50 日本語ウォッチングで街を行こう

田村 早苗 (文学部専任講師)

街を歩くといろいろな日本語が目飛び込んできます。看板やお店のメニュー、注意書き、ポスター……わざわざ本や新聞を開かなくても、私たちの日常には日本語があふれています。中には「あれ、おかしいな?」と違和感を覚えるものも。この講義では、街角のいろいろな「ちょっと変?」な日本語を入口にして、日本語について考えてみます。その入口は、日本語が持っているちょっと不思議な特徴につながっていたり、教科書には書いていない(でもみんな使いこなせる)「文法」につながっていたり、「うまく伝えるとは」という少し大きな問題につながっていたりします。一緒に街角から日本語の世界をのぞいてみましょう。

54 モンゴル遊牧民の暮らしと食べ物

風戸 真理 (短期大学部生活創造学科専任講師)

モンゴル高原には、家畜を育ててその畜産物を利用して暮らす遊牧民が暮らしています。私はモンゴルの遊牧民の家にホームステイして、約500日間遊牧民と一緒に暮らしながら彼らの生活技術を調査研究してきました。遊牧民の子どもは、家畜を飼う仕事をしている両親のもとで育ちつつ、町の学校に通っていました。この講義では、モンゴル遊牧民の例をととして、日本と異なる生活・食事・子どもの育ち方を学びます。そして、異文化の人びとが私たちと同時代を生きる隣人であることを理解することをめざします。

福祉

51 考える／分かりあう ための 論理トレーニング

田村 早苗 (文学部専任講師)

考えがまとまらない、伝わらない、分からない——すこし複雑な問題や内容を扱おうとすると、こんな悩みをもつことはよくあります。そんな時のガイドとして、「論理」を知っておくことが役に立ちます。論理は小難しいものではなく、何かを考えたり、考えを共有したりするときによく使う方法や、よくある間違いについてのノウハウがまとめあげられたものと見れば、誰にとっても有用なものと言えるでしょう。本講義では、論理トレーニング入門編として、いくつかの論理クイズを考えてみたいと思います。言葉だけではなく図や絵も使って、いろいろなやり方で考えを整理し共有する方法を練習しましょう。

55 スローライフとコミュニティレストラン

杉岡 直人 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

今話題の地域力とは、地域社会の問題について住民や企業などの地域の構成員が、当該地域社会の問題点や課題を共有し、自主的自律的に解決をはかり、あるいは地域の文化や伝統をはじめとする価値を創造していく力を意味します。スローフード、スローシティ、サステイナブルコミュニティといわれるキーワードは新しい社会のあり方をマイペースの生き方を基本とするものに変えようとするものです。コミュニティレストランは、地産地消を基本とする生産と食の拠点ですが、世代やハンディキャップをこえて誰もが参加することが出来る場として注目されています。安全な食の拠点+助け合いの拠点+雇用の拠点+集いの拠点+情報交換の拠点+生産・加工・流通・販売の拠点、そしてまちづくりの拠点となるものです。考え方と実践を紹介し可能性を考えます。

56 はじめてのNPO

杉岡 直人 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

介護保険改正により、生活支援サービスの構築が求められています。自治体レベルでの住民・行政・NPO・自治会を中心とする連携課題が、地域包括支援センターに示されることになった背景と課題について、最近の動向を中心に検討します。

60 日本の医療…どうなっているの？ これからどうなるの？

安部 雅仁 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

わが国では、1961(昭和36)年に「国民皆保険」が制定されました。これが広く定着する中で「受診機会の平等」が基本的には保証され、長寿社会や長い健康寿命および低い乳児死亡率といった点で一定の成果も得られています(他の国に比べて、たいへん高く評価されています)。

一方、医療費が増加する中で医療保険財政の赤字が拡大し、これが制度の持続(可能)性を低下させる要因にもなっています。主な検討課題として、長期の(平均)在院日数、高額な薬剤費と医療機器、医師・医療機関の地域間格差、高齢者医療費の財源調達等があげられています。

少子高齢化と経済の低成長が長期的トレンドと予測される現代において、医療制度改革は重要課題の一つと位置づけられています。この講義では、新しい動向を取り入れながら、日本の医療の実態と改革の方向について考えていきます。

57 外国からみた日本の若者

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部福祉計画学科教授)

表面的に見ると、日本の若い人は豊かで恵まれた環境で育ち、楽しい生活を送っているという印象になります。しかし他方、日本で不登校、いじめ、スクールカースト、トイレ弁当、自殺、受験地獄、ブラックバイト、子供の貧困率などの問題も目立っています。10歳代の青少年の生活は、実際には、日本と欧米の国々との程度、どんな点で異なるのか紹介して、その背景を論じながら日本の若者が日常生活の中で恵まれている点とそれほど評価できない点を一緒に検討していきます。

61 福祉実践を支える思想 ～ノーマライゼーションから今日まで～

岡田 直人 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

北欧でノーマライゼーションの思想が誕生した歴史的背景を主に紹介します。今日では、その思想は日本を含め全世界に拡がり、発展し、ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)に至っています。

その経緯とこれからの地域や生活における社会のあり方にも触れます。そのなかで、日本における糸賀一雄の福祉の思想についても紹介します。

58 豊かな国で なぜ子供の貧困率が高いか

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部福祉計画学科教授)

日本の子供の貧困率は16%を超えており、OECD加盟国の中で高い方に入っています。「豊かな国」日本ではなぜ子供の貧困率はこんなに上がっているのだらうかとどろく人が国内外ともに多いと思います。貧富格差が広がる背景に、非正規雇用の増加、ジェンダー不平等の継続などが存在します。本講義では、これらの要因、子供の貧困や高齢者の貧困との関係、いわゆる貧困連鎖メカニズムなどについて分かりやすく分析・説明します。また、海外の子供の貧困率を紹介し、様々な国の背景の状況を紹介します。

62 高校生にもできる地域福祉活動の担い手! ～何ができるだろう!?～

岡田 直人 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

日本の社会保障制度の脆弱化、地域社会の人間関係の希薄化が社会的に関心をもつようになり、社会福祉は変化してきています。そのなかで地域福祉が社会福祉の主流となり、地域住民と行政などと協力しての地域福祉活動がいっそう求められています。そこでこの講義では、高校生にもできる地域福祉活動の担い手として、何ができるのかを受講生に考えてもらう内容となっています。

59 「高齢者福祉」の学習・体験に よって広がる将来の進路選択!

安部 雅仁 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

わが国では、高齢化が進む中で社会・経済のあり方が大きく変わりつつあり、こうした変化に対応する人材(=人財)の育成と確保が求められています。具体的には、高齢者の福祉と医療の分野だけではなく、民間企業や公共機関も「高齢社会にいかに対応するか!」が重要になっています。その中でも民間企業(製薬・薬局、住宅リフォーム、旅行代理店、家具・福祉用具、保険金融、百貨店・スーパー、教育やファッション等に係る企業)は、絶対数で増加する高齢者のニーズを把握し、そのニーズにいかに対応するか経営を左右する重要課題として捉えています。もちろん国家・地方公務員も、高齢社会に対応するセンスや能力が求められるようになっています。

現在わが国では、高齢者福祉の制度と実践に加え、広く社会・経済・法律を学び、さらにボランティア活動等を通して「高齢者とのコミュニケーション能力」を向上させることが大きな意義と可能性をもつこととなります。

63 社会福祉からの地域社会へのアプローチ ～災害から命を救う地域社会を目指して～

岡田 直人 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

私たちが住む身近な地域社会において、社会福祉はどのような役割を担うことができるのかを学びます。社会福祉は、高齢者・子ども・障がい者等、対象者別にこれまでは支援してきました。しかし、これらの者はみな地域社会に住んでいます。また、同じ屋根の下で、福祉の支援が必要な高齢者・子ども・障がい者が暮らしていることも少なくありません。そこで、これらの者をすべて対象とする社会福祉の発想として地域福祉についてその考え方と方法について学びます。その際、災害から命を救うことができる地域社会に向けての取り組みやノウハウを紹介します。

福祉

64 社会と社会福祉

佐橋 克彦 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

「福祉」は単なる思いやりや、やさしさだけで語れるものでしょうか。確かにそれらは福祉を構成する一部ですが、現代社会における「社会福祉」は政治や経済との関係を抜きにして理解することは難しいです。

本講義では社会福祉の前段階である慈善や、救済の限界などに触れつつ、わが国における社会福祉の成立を整理します。社会とは一体何者なのか、そして「社会」福祉の意味や現代におけるその存在意義を社会福祉制度の概要や社会福祉援助の特質を踏まえて考えてみます。

68 子ども・若者を取り巻く福祉問題 ～教育と雇用から～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部福祉計画学科准教授)

現在の日本では、若者を取り巻く様々な社会問題が存在しています。その代表が教育と雇用で、これは貧困や格差といった問題と深く関わっています。若者世代が将来を考える上で、解決しなければならぬ課題は多くあります。

この講義では、教育と雇用に絞って子ども・若者に関する話題について、事例を用いながらお話しします。

65 日本がこんなに少子化なわけ、その理由はこれ!

伊藤 新一郎 (社会福祉学部福祉計画学科准教授)

日本は先進諸国の中でも最も少子化が深刻な国の1つです。少子化対策が長年取られているはずなのに、改善の兆候は見えていません。

この講義では、日本の少子化の特徴とその背景について、多様な観点からみていきます。その上で、今後の少子化対策のあり方と、「目指すべき日本の姿」及び「若年世代の未来」について話します。

69 障害者福祉の考え方

田中 耕一郎 (社会福祉学部福祉臨床学科教授)

障害者福祉の基本理念として、「ノーマライゼーション」と「社会モデル」の考え方を解説します。「障害者の生きづらさ」の原因を社会の中に見出してゆこうとするこの二つの考え方によって、障害者福祉の法律や制度、障害者支援の方法や内容がどのように変化してきたのか、また、今後、障害者が市民としてのさまざまな権利を保障され、市民にふさわしい社会生活をおくるためには何が必要なのか、という点について考えたいと思います。

66 初心者のための社会保障 ～年金・医療・介護の未来はどうか?～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部福祉計画学科准教授)

社会保障制度は、私たちの生活の安定と安心のために不可欠です。ところが、日本では社会保障制度の将来に対する国民の信頼感が高いとは言えない状況です。例えば、若年世代は年金を受給できるのか、必要な医療が公平に提供されるのか、介護サービスは必要な時に利用できるのか等の不安が広がっています。この講義では、社会保障制度の中核である年金・医療・介護について仕組みを概観し、将来の安心のために求められる取り組み課題についてみていきます。社会情勢への関心を高めるツールとしても活用できる講義です。

70 「自閉スペクトラム症」ってご存知ですか?

西田 充潔 (社会福祉学部福祉臨床学科教授)

2013年5月に本国アメリカで刊行された「DSM-5」。日本語翻訳版は2014年6月に出版されました。「DSM-5」では、「アスペルガー障害」という名称がなくなりました。日本国内でも、今後、消えていく可能性があります。また、新たに「自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害」というカテゴリーが設けられました。「自閉スペクトラム症」とは、どのような障害なのでしょう。

本講義では、これまでの概念・名称と新たなものとの関係性について説明し、一つ概念と用語が消えることの影響について考えてみたいと思います。そして今後の日本の教育と福祉に及ぼす影響についても考えてみたいと思います。

67 社会福祉からみる幸福論 ～幸せのための基礎的条件～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部福祉計画学科准教授)

社会福祉は私たちの幸せに関係する学問です。幸せのかたちは人によって様々なはず。誰もが「幸せになりたい」と願うとすれば、100人100通りの幸せがあると言えます。その場合、多くの人に共通する「幸福」の基礎的条件があるのです。

この講義では、「幸福論」と社会福祉の関係について、事例からわかりやすく解説します。

71 福祉の仕事と大学での学び ～障害児の療育相談を例に～

西田 充潔 (社会福祉学部福祉臨床学科教授)

福祉の仕事についてのイメージをもってもらうため、まずは「福祉の仕事とは?」について説明します。中でも、福祉臨床学科では主眼に据えている「ソーシャルワーカー」の働きについて具体的に解説します。

講義の後半では、「障害児」の療育相談におけるソーシャルワーカーの面接を題材にして、受講生の皆さんにロールプレイ学習を体験してもらいます。こうした学習方法は「大学での学び」の実例の一つでもあるため、受講生(高校生)が大学の授業(演習)を具体的にイメージすることが出来るものと思います。そのため、受講生の皆さんの積極的な参加を期待します。

72 こころの病(精神疾患)を理解する

永井 順子 (社会福祉学部福祉臨床学科准教授)

こころの病(精神疾患)は、以前よりも私たちの生活のなかで身近な病気となっていますが、それでも誤解や偏見が根深くあります。精神疾患は若い世代から高齢者まで、人生のさまざまな段階で直面する可能性のある病気であり、病気や治療、福祉サービスについて知っておく意義があるでしょう。

本講義ではいくつかの精神疾患の特徴などを紹介し、病気について知っていただくとともに、病気に対する誤解や偏見があるのは何故かを一緒に考えていきたいと思います。

76 体力向上と日常生活習慣

星野 宏司 (経済学部教授)

体力や健康づくりの基本は、食事、運動、休養が3本柱です。その中で、食事はバランスの良い食事を規則正しく摂取することです。特にトレーニング後の食事は糖質の補給はもとより、タンパク質の摂取が重要です。運動は、強度、種類、時間、頻度を考えて実施計画を立てなければなりません。休養は、睡眠と筋肉及び精神的緊張をリラゼーションすることです。

このような内容を易しく講義します。

73 少子高齢化×人口減少=日本の将来 ～どんな地域になるの?どう生活するの?～

畑 亮輔 (社会福祉学部福祉臨床学科准教授)

日本の中で「少子高齢化」や「人口減少」という言葉はよく聞かれますが、それらの具体的な問題についてはなかなか見えてきません。それは、「少子高齢化」や「人口減少」という問題が、日本という大きな規模では分かりにくいということでもあります。つまり、本来的にはそのような問題は、人々が生活をしている地域規模で考える必要があります。

この講義では、皆さんが実際に生活をしている地域に焦点を当てながら、「少子高齢化」と「人口減少」の現状を確認するとともに、今後の予測についても展望しながら、若い人も高齢者も幸せに暮らしていくためにはどうすればよいのかということを考えてみたいと思います。

77 ケアすること されること

藤原 里佐 (短期大学部生活創造学科教授)

自分があかちゃんだった時のことを覚えていますか??? 家族の人から、あかちゃんのころの様子を聞いたことがありますか。人は生まれてからしばらくの間、日常生活の全てにわたって、ケアをうけています。寝返りも、排泄も、食事も、着替えも誰かの手によってなされているのです。

そして、人生の最期においても、人は多かれ少なかれ、医療や介護のケアを必要とします。

元気で、なんでも自分の力でできるときには忘れがちな「ケア」について、それを支える側、必要とする側、両方の視点から考えてみたいと思います。

74 障害について知っていますか? ～50人に1人の確率～

田実 潔 (社会福祉学部教授)

○障害って何だろう。
肢体不自由は障害、では病気は?あるいは毛髪のうすい人は?

○みんなの周囲には実に多くの障害を持った人がいる。

○不自由なのは不便なのか?

○優しい社会は障害を持った人よりも普通の人にも必要!?

78 子どもは誰のもの?

藤原 里佐 (短期大学部生活創造学科教授)

子どもは誰のもの?何才までが子どもなのでしょう。子どもは出自を選ぶことができません。「どこに生まれてみたいか」「誰に親になってもらいたいか」「どんな家庭環境で育ちたいか」という希望は、聞かれることがありません。それゆえに、全ての子どもが健やかにのびのびと成長するよう、社会が責任をもって、子どもを見守らなければならないのです。

残念ながら、現代社会においても、子どもの健全育成が阻害される要因があります。毎日のように報道されている「子どもの教育」「子どもの格差・貧困」「子どもの生きにくさ」等々、この世に生まれ、愛し尊ばれるべき子どもが、笑顔を失っています。子どもをとりまく社会状況の変化とその背後にある問題を一緒に学んでいきたいと思います。

75 障害(がい)のある人と ともに作る社会とは?

田実 潔 (社会福祉学部教授)

障害を理由として障害のある人を差別してはならない、という法律があります(障害者差別解消法)。頭では理解できるけど、実際にその法律が目指しているものは何でしょう?

具体的に大学で取り組んでいる事例を紹介しながら、障害のある人とともに作る社会について考える機会としませんか?

79 福祉臨床(ソーシャルワーク)とは、 何をするのか?

中村 和彦 (社会福祉学部福祉臨床学科教授)

社会の中には、様々な生活上の課題を抱えた人々が存在しています。その中には、自分自身や周りの人の手助けだけでは、課題の解決に至らず、日々の暮らしに不安を抱え、苦しんでいる人々が大勢います。

「ソーシャルワーク」とは、そのような人々の思いを汲み取り、専門的な知識と技術によって、課題の解決につなげていく実践活動です。

本講義では、「ソーシャルワーク」が持っている基本的考え方について、わかりやすく解決します。

福祉

80

精神に障害を抱えた人を、理解するには？

中村 和彦 (社会福祉学部福祉臨床学科教授)

いまや、国民の4分の1の人が、一生涯の間に、何らかの精神的な疾患を抱える時代になりました。それはつまり、身近な問題として考えなければならないことを意味しています。疾患の重い軽いに差はありますが、罹患したことにより、その後、多くの人々は、生活上の課題を抱え、「生きづらさ」の中で、不安な日々を送ることになります。

本講義では、精神に障害を抱えた人の「生活障害」と、それへの支援について、わかりやすく解決します。

84

オリンピックを文化経済学で考える ～スポーツの文化経済学～

勝村 務 (経済学部経済学科准教授)

文化経済学は、芸術やスポーツなど文化が花開く社会はどのように実現できるのかを考える、比較的新しい学問です。

2020年に迫る東京五輪は、なぜ7月から8月にかけて行われるのでしょうか。前回の東京五輪(1964年)は10月の開催でした。東京五輪では、競技会場についての紆余曲折もニュースになっていますね。また、札幌は、冬季五輪の2度目の招致をいま目指しています。

こうしたニュースを出発点に、オリンピックを入口として、スポーツと経済・社会の関係について考えてみましょう。

経済

81

日本経済の160年

平井 廣一 (経済学部経済学科教授)

日本経済が、近代化を目指してほしい160年の年月がたちました。それまで日本は農業と簡単な繊維産業はありましたが、工場や企業、銀行などはありませんでした。ではそのような後れた日本経済は、どのようにして「ものづくり」大国になったのでしょうか。割と簡単に出来たのでしょうか。あるいは苦難の道のりだったのでしょうか。

この講義では、この160年にわたる日本経済の歩みを簡単なプリントを使ってお話しします。

85

人類はたった1秒で地球を破壊した ～地球崩壊のシナリオ～

野原 克仁 (経済学部経済学科准教授)

毎日、当たり前のように太陽が昇り、空は青く白い雲が流れ、胸いっぱい呼吸し、お腹いっぱいの食事をとり、健康的で幸せな日々を送ることができている…。しかし、多くの人が気付かないところで、地球は崩壊のシナリオを歩んでいます。未来の地球では、今の当たり前が当たり前ではなくなっている可能性が高いのです。

この講義では、特に地球温暖化問題を取り上げ、経済学を武器にその病巣にメスを入れます。経済学で地球環境問題に立ち向かえる楽しみを、是非実感してください。

82

日中経済の100年

平井 廣一 (経済学部経済学科教授)

今から100年ほど前に第1次世界大戦がヨーロッパで始まり、日本はその戦争に加わって、ドイツに宣戦布告をします。ところが日本が戦争を始めた本当の理由は、敵国であるドイツに打撃を与えることではなく、中国にあった自分達の「権利と利益」(これを権益といいます)を守ることであったのです。実は、この中国に存在した日本の「権益」こそが、その後の日本と中国の関係を決定づけることになったのです。

この講義は、この秘密を明らかにして、その後の日本と中国の経済関係の歩みを振り返ります。

86

同じ大地につながる生き物たちの悲鳴

野原 克仁 (経済学部経済学科准教授)

地球上で営まれている生き物たちの小さな命のサイクルは、普段私たち人間には何の価値もないように思われます。しかし、ハチの受粉行動だけを取りあげてみても、巨額の経済価値を生み出しているのです。例えば、スイス1国では約170億円もの価値が生み出されているという研究結果があります。今、地球上の生き物たちは、人間の身勝手な開発により悲鳴をあげています。同じ地球に生きる仲間の声に耳を傾けるために、経済学ができることを考えてみましょう。

83

サキヨミの経済学 ～ゲーム論と美人投票～

勝村 務 (経済学部経済学科准教授)

他の人の行動を先読みして、自分の行動を決める。そうしたとき、わたしたちはどのように行動を決め、そしてそれはどのような結果をもたらすのでしょうか。ここに着目するのが、ゲームの理論と「ケインズの美人投票」という考え方です。

この講義では、まず前半に、ゲームの理論(合理的に行動すると?)、そして、そこから発展している行動経済学(ひとは必ずしも合理的には動けない?)が考えていることについて、ごく簡単に紹介します。

後半では、「ケインズの美人投票」を体験してもらうことを通じて、現代の社会についていっしょに考えていきます。

87

地球が抱える問題に、環境経済学ができること

野原 克仁 (経済学部経済学科准教授)

地球環境問題とは、何のことを指すのでしょうか?温暖化のことでしょうか?実は、地球環境問題とは多くの問題が複雑に絡み合って形成された問題なのです。地球環境の破壊は、人間の経済活動の発展が引き起こしたと言っても過言ではありません。それならば、経済学こそが最良の処方箋になるはず。経済学とはどのような学問なのかを簡単に解説し、環境経済学が地球環境問題解決に向けて、何ができるかを実験を交えながら分かりやすく紹介します。

88 経済学史入門

楠木 敦 (経済学部経済学科専任講師)

この講義では経済学史という学問分野の意義の一端を紹介したいと思います。経済学史とは、「経済学」の歴史を研究する学問分野です。ひとくちに経済学と言っても、さまざまな専門分野から構成されており、多様な考え方が混在しています。それゆえに、経済学とはどのような学問であるかということについても紹介することができればと考えています。

この講義が、高校生みなさんにとって、経済学という学問に興味を抱ききっかけになればと思います。

92 会計はあなたを救う！ ～どんな組織でも必要とされる会計知識～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

会計イコールお金の計算というイメージを持っている人が多いと思います。お金の計算は特殊なことでしょうか。いいえ、皆さんのこづかい帳やお母さんが付けている家計簿もお金の計算ですし、多くの人が就職しようと思っている会社で行っているのもお金の計算です。さらにいえば、公務員が勤めている市役所や道庁などの行政機関、ケアマネージャーが勤めている社会福祉施設、学校法人での会計がフロースアップされています。それに伴って、どんな職に就こうとも、これまで以上に会計知識を持った人材が求められています。

この講義では、どんな組織でも必要とされる会計知識の一端を紹介します。この講義を受講すれば、北星学園大学で会計を学びたい！

89 企業の不祥事と社会的責任

山口 博教 (経済学部経営情報学科教授)

食品偽装、粉飾決算、事故隠しなど近年さまざまな企業の不祥事が発覚し、対応に追われています。(北海道では雪印食品、J R等) 一方企業は企業の社会的責任を自覚し、経営改革も行われています。法律を遵守し、株主や利害関係者に説明責任を果たす努力が行われています。

どのような時期と場合に社会問題が発生するか、何故不祥事が生じてしまうのかについて考えてみましょう。また将来会社に入り、このような場面に遭遇した場合には、どのような態度を取ればよいのか考えてみましょう。

93 「さおだけ屋」と「食い逃げ」 から考える会計の話

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

最近では会計をやさしく解説した書物がたくさん出版されています。それらの書物は「会計の考え方」を説明したものと「決算書の読み方」を説明したものに大別できます。

本講義では、「会計の考え方」を解説してベストセラーになった書物で採り上げられているエピソードやクイズに基づいて、生活する上で役立つ会計的発想を紹介し、また、大学で会計学を学ぶための心構えもお話します。

90 金融詐欺は何故なくならないのか

山口 博教 (経済学部経営情報学科教授)

2011年にピークを迎え、一旦は減少傾向に向かっていた金融詐欺事件が東北大地震と原発事故を境としてまた増加し始めています。手口はますます巧妙となり、複雑化しています。また受け子として子供まで使われています。この結果、被害金額は個別案件でも総額でも驚くべき上昇を見せています。

この原因を、社会の変化から考えてみます。①年金等老後の資金が狙われています。②背後には反社会的組織犯罪集団が動いています。③社会の経済格差が広がっています。他にも考えられる原因をさぐりましょう。

94 牛丼とハンバーガー、どちらがお好き ～経営と会計の味な話～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

「100円ハンバーガーは、いくらで作っているのか」、あるいは「本当に会社は儲かっているのか」を考えたことがありますか？

食べ物の値段には、用意周到な企業戦略が隠されています。この講義では、普段我々が口にしている食べ物の値段がどんな風に決められているかを、会計(製品原価)の観点から紹介します。そしてそこに隠されている企業戦略とはいったい何かを皆さんと一緒に考えます。

この講義を聴くと、絶対友達に自慢したくなりますよ。

91 キミにもできる会計的発想 ～「金持ち父さん貧乏父さん」の教え～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

大ヒットしたロバート・キヨサキ氏の『金持ち父さん貧乏父さん』。この本は、お金持ちになるための必要な「知識」や「考え方」を説いた本です。その知識は会計学ですし、考え方こそが会計的発想に基づいています。

この講義では、ロバート・キヨサキ氏の主張を紹介しながら、生活する上で役に立つ会計的発想や、大学で学ぶ会計学を家計管理という視点から紹介します。

ただし、この講義を聴いたからといってお金持ちになれるというわけではないので間違えなく。

95 あなたの知らない世界 ～職業と会計～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

高校生が聞いたことがない学問領域のひとつが会計学でしょう。もしかすると会計という言葉も聞いたことがないかもしれません。

しかし、世の中には会計にかかわる仕事がたくさんあります。しかも会計にかかわる資格検定もたくさんあります。これはなぜでしょうか。

この講義では、大学卒業後の進路(職業選択)を会計学という視点から考えます。

『そんな学問があったのか』と視野を広げ、大学での学びについて考えるキッカケをつかんでもらうことがこの講義のねらいです。

経済

96

コンビニを通して、 購買心理と店内の工夫を探る

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

コンビニエンスストアは、比較的狭い売場面積にもかかわらず、食料品や日用雑貨を中心に数千種類にも及ぶ商品が取り揃えられています。これらの商品は、種類別にまとまってレイアウトされていますが、適当に配置されているわけではありません。チェーン店によりそれぞれ特徴がありますが、商品のレイアウト(配置・並べ方等)については、来店客が買物をしやすいように、心理や移動の特徴に基づいた様々な工夫を行っています。コンビニという場を通して、お客の買物時の心理とそれに伴うお店の工夫について、一緒に探ってみませんか？

100

欧州における 交通まちづくり・マネジメント

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

欧州においては、人に優しい交通、すなわち移動をしやすいまちづくり(マネジメント)を行っており、そのことがまちなかにおける商業(買い物)や観光等の活性化に大きく役立っています。

本講義では、交通や移動の視点を中心に、地域活性化に役立っている交通まちづくり(マネジメント)について、写真などを多く用いながら紹介します。そして、この講義は人の移動のしやすさのユニバーサルデザインや気づきの学習につながると思います。

97

コンビニ大解剖！ ～商品と歴史について探る～

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

皆さんは、コンビニに何を買いに行きますか？コンビニは、そのコンビニエンスという名称にも表れているように、私たちの生活における“便利な”お店として、私たちの周辺に多く存在しています。このようにコンビニの店舗数が増え、大きく発展してきた大きな理由の1つに、お客のニーズを踏まえた商品やサービスを上手に取り入れてきたことが挙げられます。本講義では、コンビニの定義(コンビニとは何か?)や生まれた経緯・成り立ちとともに、商品構成(何を買うのか?)に焦点を当てて発展要因・理由について探ってみることにします。また、コンビニチェーンごとの特徴(ネーミングやロゴにもその秘密が隠されています)や歴史についても紹介します。

101

サービス科学と情報技術

林 秀彦 (経済学部経営情報学科教授)

私達の身の回りには様々なサービスがあります。既存のサービスに潜む問題を解決したり、新たなサービスを創出したりする取組みが、情報技術を活用して実践されています。

それらの事例を交えてサービス科学について考えます。

- 身の回りのサービス
- サービスとは
- サービス科学について
- 情報技術による問題解決
- 問題解決型サービス科学について

98

人の移動と お店の立地の関係について探る

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

現在、日本国内には5万店を超えるコンビニが存在しています。どうしてこのように多くのコンビニが立地し、成り立っているのかを皆さんはご存知でしょうか？これは皆さんの買物行動・移動の特性(購入商品の種類や価格、周辺環境&気軽に歩ける距離)が大きく影響しています。また、その特性は大規模小売店舗、ショッピングセンター、アウトレットモールの立地や施設内の店舗配置でも同じように影響していますし、もう少し広く考えますとバス停や公園等、生活関連施設の配置にも大きく影響しています。本講義では、コンビニを中心として、店舗・施設の立地と人間の行動・移動の特性との関係について、事例を挙げながら探っていくしたいと思います。

102

海外のメイド・イン・ジャパン ～日本企業の国際ビジネス～

多田 和美 (経済学部経営情報学科准教授)

今日、日本企業は、国内市場だけではなく、海外市場にも積極的に進出しています。それでは、日本企業は、海外でどのようなビジネスを展開しているのでしょうか？日本製品は、高い技術と優れた品質で知られています。しかし、それだけでは海外の消費者に受け入れてもらうことはできません。多様な海外の消費者の要望に応えるために、日本企業は様々な工夫をこらした製品を導入しています。

この講義では、海外市場向けの製品ならではのユニークな日本製品を紹介しながら、日本企業の国際ビジネスについて解説します。

99

私たちの生活に優しい ユニバーサルデザイン

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

皆さんは、シャンプーボトルに付いている突起をご存知でしょうか？最近、ピクトグラム(絵言葉)をよく見かけませんか？これらは、ユニバーサルデザイン(UD)の一例です。UDは全ての人のためのデザインという意味で、多様な人々が使いやすい工夫のことを指します。近年、この考え方は非常に重要と考え、様々な業種の企業(店舗、商品)、交通施設(駅・空港等)・観光地における案内サインなどで活用されています。本講義では、わかりやすいピクトグラム事例、私が携わった空港の工夫事例、海外事例にも触れながら、様々なわかりやすく、使いやすくする工夫(UD)について考えてみます。その「気づき」は社会のいろいろな場面で役立ちます。

103

コカ・コーラ vs. ペプシコーラ ～日本の清涼飲料市場における競争～

多田 和美 (経済学部経営情報学科准教授)

これまで、世界各国で「コカ・コーラ vs. ペプシコーラ」の戦いが激しく展開されてきました。なかでも、日本では特に競争が繰り広げられてきました。日本の清涼飲料市場は、他の国と比べて非常にユニークな特徴を持っているからです。

この講義では、私たちに身近なコーラ飲料をはじめとする清涼飲料のビジネスの実態に迫ります。そして、コカ・コーラ vs. ペプシコーラの競争事例から、企業の競争戦略と海外進出戦略について考察していきます。

104 「日本マクドナルドvs.モスバーガー」に学ぶ経営戦略

黄 雅雯 (経済学部経営情報学科専任講師)

『日経シェア調査 2014年版』によると、ハンバーガーチェーン市場においては、日本マクドナルドとモスバーガーが市場シェアの上位2企業です。特に、日本マクドナルドは2012年度の市場占有率が76.4%を占め、連続7年間トップ1位を維持してきたことがわかります。

この講義では、日本マクドナルドの強み、そしてモスバーガーが日本マクドナルドに対抗するために取った企業行動などを紹介します。

この講義を通じて、皆さんが「企業の戦略的行動を分析するための考え方を身につけること」を目標とします。

108 コースの定理:法律学と経済学との接点

増田 辰良 (経済学部経済法学科教授)

法律学と経済学とは別個の学問として考えられています。一般的に、法律学は権利や義務が誰に帰属するのかを考える学問であり、経済学は効率性を考える学問であるというイメージがあります。しかし、この2つの学問は相互に関係合っています。この講義では公害を出す企業(加害者)と住民(被害者)とを取り上げ、加害者と被害者が公害の削減をめぐる取引(交渉)をするのに費用がかからなければ、いずれに権利(加害者:公害を出す権利、被害者:公害を回避できる権利)を与えても同じ効率的な結論になるというコースの定理を簡単な数値を使って説明します。当事者間での自発的な交渉に費用がかからない限り、裁判制度や政府の介入によらずとも公害を削減できるということです。なお、コース(Ronald. Harry. Coase) というのは1991年にノーベル経済学賞を受賞した経済学者の名前です。

105 「LINE」に学ぶビジネスモデル

黄 雅雯 (経済学部経営情報学科専任講師)

LINEは2011年6月に無料のメッセージ・サービスの配信を開始しました。LINE株式会社の広告媒体によると、日本国内の「生活インフラ」として定着し、国内利用者数は人口の45%をカバーしています。さらに、LINEは世界60カ国に広まり、2015年6月時点での月間アクティブユーザー数はグローバルで約2億1千万人に上ります。

この講義では、LINEが何の価値をどのように提供するかを紹介します。この講義を通じて、皆さんが「企業のビジネスモデルを分析するための考え方を身につけること」を目標とします。

109 「金融政策のしくみ」入門

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

近年、量的金融緩和政策、マイナス金利政策といった用語が使われるようになり、金融政策にかかわるニュースを見聞きしても、一般の人にとってその内容を理解することが難しくなってきました。

この講義では、金融政策について政策の目的と仕組みについて考えていきます。

106 クイズで学ぶヒット商品とヒットの仕組み

鎌田 直矢 (経済学部経営情報学科専任講師)

「今、ヒットしている商品はなんですか?」。こう問われると最近よく話題になっているお菓子や文房具、さらにはゲームや映画などを思い浮かべることでしょう。しかし、皆さんの「感覚」は正しいでしょうか?

本講義は皆さんの「感覚」が正しいかどうかを確かめるクイズを出しながら講義を進めていきます。クイズを通して今何がヒットしているのかを皆さんの「感覚」ではなく「経営情報」に基づいて確認し、さらにはヒットの仕組みについて皆さんと一緒に考えていこうと思います。

110 「お金」になりうるモノとは

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

取引の媒介手段として、古来、人類が使用のお金(貨幣)として、香辛料、金貨、紙幣(兌換、不兌換)など様々なモノが使われてきました。そして今日、仮想通貨と呼ばれる新たなお金も誕生しています。

この講義では、お金として使用されるこれらのモノが持つ共通の性質、相違点について考えていきます。

107 家電リサイクル法と経済学

増田 辰良 (経済学部経済法学科教授)

大学では法学と経済学とは別個に教えられています。しかし、この2つの学問は人間の行動を観察・考察するという同じ社会科学の領域に属しています。本来、これらの学問は相互に関係合っています。この講義では家電リサイクル法(正式名称「特定家庭用機器再商品化法」2001年4月施行)を取り上げ、法の導入が経済主体に与える効果を説明します。

不用になった1.エアコン、2.テレビ(ブラウン管及び液晶・プラズマ式)、3.電気冷蔵庫及び電気冷凍庫、4.電気洗濯機及び衣類乾燥機、を処分するとき消費者=排出者は「収集・運搬料金」と「再生品化費用=リサイクル料金」を支払わなければならない。経済学ではこうした不用物を「バズ(bads)」と呼んでいます。この場合、不用物とお金とその所有者から取引相手へ一方的に流れます。家庭ゴミの有料化制度もこれと同じ主旨で実施されています。

以下の順番で講義を展開します。

リサイクルとは何か。家電リサイクル法が導入された背景、目的と運用成果。家電リサイクル法が経済主体に与える効果。家電リサイクル法の課題。

111 経済問題について考えてみよう

上口 晃 (経済学部経済法学科専任講師)

大学へ進学する際に、学部選びは重要なポイントであると思います。大学には経済学や経営学を専門に学ぶ学部や学科がありますが、その違いとは何でしょうか。本講義では、主に経済学の特徴を説明し、受講生が経済学の特徴について理解することを目標とします。

講義では各種指標の見方について説明し、日本が直面する経済問題について解説を行います。本講義で現実の経済問題について考えることが、経済学に興味を持つきっかけになればと思います。

経済

112 経済学を実験する

山邑 紘史 (経済学部経済法学科専任講師)

現代社会に生きる私たちは、日々様々な経済活動を行っています。例えば、「授業料を払って高校の授業を受ける」「昼食のパンを買う」「放課後にアルバイトをする」など、みなさんにとって身近なこれらの活動は、れっきとした経済活動と言ってよいでしょう。一方、個々人の経済活動が市場全体でどのように関わっているかについて、私たちが明確なイメージを描くのは難しいかもしれません。

この講義では、教室を仮想的な市場として、みなさん同士で取引を行う経済実験を実施します。経済実験を通じて、市場がいかなる機能を持っているかを検証します。

116 デザイン・ベビー

～魔法か、それとも悪魔の技術か?～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

親ならば、子どもに“賢くなってほしい”、“可愛くなってほしい”と願うはず。だから、親は、子どもを塾に通わせたり、きれいな服を着せたりします。ならいっそのこと、遺伝子を操作して、自分好みの子どもを“デザイン”してはどうでしょう。記憶力を高めたり、目を二重にしたり、「ガダカ」という映画を見ながら、“デザイン・ベビー”をめぐる法や道德の問題について一緒に考えてみましょう。

法律

113 契約・法・北方領土

篠田 優 (経済学部経済法学科教授)

落語の三題噺みたいなテーマですが、無理なくこの三題はつながっています。どうつながっているかというところ——

- ①適法に締結された契約は法律の効力を持つ；
- ②条約は、国家間の契約である；
- ③条約のないところでの領土問題の法的解決は、甚だ困難である；
- ④日口間で北方領土問題を決する条約はない；
- ⑤ゆえに、北方領土問題を解決するには政治的知恵をしばらざるを得ない；

ということです。講義ではこの5点を膨らませながら、契約と法について考えてみたいと思います。

117 家族における男女の平等

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

素朴な疑問ですが、結婚できる年齢が、男性と女性とで違うのはなぜでしょうか。女性は、男性とは違って、離婚した後すぐには再婚することはできません。女性は、これまで離婚後300日再婚を待たなければなりませんでしたが、最高裁はこの法律の規定の一部を違憲としました。最高裁はどのような理由で違憲としたのでしょうか。また、結婚すれば夫と妻のどちらかの姓にするのが当たり前のようですが、世界の国々ではどうなっているのでしょうか。このような家族をめぐる男女の平等の問題について一緒に考えてみましょう。

114 犬の権利と猫の義務

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

動物にも、生きる権利がある。自由に生きる権利もあるし、虐待を受けない権利もある。♪僕らはみんな生きている～、生きているから権利があるんだ～♪冗談ではありません。

権利を研究する専門家の中には、人間以外の動物にも権利があると大まじめに主張する人たちがいるのです。ただし、ここでいう権利は、法に基づく権利ではなく、道徳に由来する権利のことです。

動物にも権利があるとすれば、私たちの日常生活は、一変するでしょう。スポーツとしてハンティングを行うことはもちろん、鶏を狭い小屋に押し込めて飼育することも、犬や猫を去勢することも、みんな動物に対する権利侵害ということになります。

動物にも権利はあるという問題は、人間にだけ権利があるのはなぜかという問題と表裏をなす問題です。常識を疑い、眼鏡を逆さまにかけることから見えてくる真実もあります。さあ、一緒に考えてみましょう。

118 18歳の選挙権

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

選挙に関する法律である公職選挙法が改正されて、選挙で投票できる年齢が18歳に引き下げられました。高校生の皆さんのなかでも、選挙権を持つ人が出てきます。また、憲法改正のための国民投票に参加できる年齢も18歳です。でも、民法という法律では、成人となる年齢はまだ20歳です。18歳は大人、それとも子ども?投票できる年齢が18歳の引き下げられたことをうけて、高校生の皆さんは、主権者として政治にどのようにかかわっていけばよいのでしょうか。政治について考えることは、決して難しいことではありません。日常の問題を通して、選挙と政治について一緒に考えてみましょう。

115 あなたは覗かれている

～プライバシーの危機～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

情報社会は、私たちの生活を便利なものに変えていきます。携帯電話があれば、ほとんどいつでもどこでも友だちと楽しくコミュニケーションできます。インターネットでのオンライン・ショッピングを使えば、お店に行く必要もなく、欲しいものを欲しいときに簡単に手に入れることができます。防犯カメラを取り付ければ、犯罪を未然に防ぐことができるかもしれません。でも、情報社会は監視社会でもあります。便利な道具は、使い方次第で私たちの生活を丸裸にする力を持っています。

この講義では、情報社会におけるプライバシーの意義についてできるだけ易しく解説します。そして、私たち自身が、携帯電話やインターネット、防犯カメラなどの便利な道具をどうやってコントロールすべきかについてお話ししたいと思います。

119 親子とは何か ～民法から考える。

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

近年、「親子」に関わる画期的な判例・裁判例が多く出されています。たとえば、非嫡出子の相続分に関する違憲判決や、性同一性障害者特例法に基づき性別変更の審判を受けた者の妻が懐胎した子が夫の子と推定された判決など、です。これらの判例・裁判例を素材に、民法がそもそも予定する「親子」、民法上の「親子」の揺らぎ、一般の「親子」感と民法の規定する「親子」のズレなどについて、高校生と一緒に考えていきます。

120 契約法入門 ～ローマ法編～

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

古代ローマでは、奴隷(人間)が売り買いされていました。奴隷に窃盗癖や逃亡癖があったり、病弱だった場合に、その売買は、どうなったのでしょうか。古代ローマの奴隷売買を素材に、契約法の原則を学んでいきます。古代ローマだからといって、侮ってはいけません。
(※グループワーク)

124 卒業後の生活を 考えてみましょう!

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

高校・大学を卒業したら、自分でお金を稼いで、生活していかなければなりません。卒業後、就職をして、その給料で、生活していくとなると、どのくらいお金がかかるのか。家計簿をつけながら、考えていきます。皆さんが将来、どのような進路に進みたいか、考えるヒントになるでしょう。
(※グループワーク)

121 契約書を作ってみよう!

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

スーパーでお菓子を買うこと、インターネットでCDを注文することなど、私たちは、日常的に、売買契約に関わっています。これらの売買のとき、契約書を取り交わすことをしませんよね。実際に、契約書を作ってみることで、法的な考え方を学んでみましょう。
(※グループワーク)

125 小学生に法を教えるとしたら…

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

皆さんが先生になって、小学生に法を教えるとしたら、どうしますか。そのための素材を、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。図書館の本の貸出ルールや、児童館の運営ルールなど、素材は自由です。僕が考える素材よりは、皆さんが考える素材の方が、小学生には身近に考えられるでしょう。
(※グループワーク)

122 お金の貸し借りについて・ 初級編

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

友人にお金を貸すとき(できることなら、貸したくないですが)、貸主であるあなたは、何が一番心配ですか。お金の貸し借りをめぐる法的な問題について、借用書(金銭消費貸借契約書)を作成しながら、考えていきます。
(※グループワーク)

126 ネゴシエーションを体験しよう

長屋 幸世 (経済学部経済法学科教授)

もし、友達に貸したモノが壊れて返ってきたら。もし、隣の家の庭木から、大量の落ち葉が舞い落ちてきたら。皆さんは、一体どのように対応するでしょうか。紛争の種は身近な所にあります。そして、その解決方法も様々です。

この講義では、基本的な紛争解決方法であるネゴシエーション(交渉)の実践を通じて、紛争の解決を試みると共に、そこで法律がどのような役割を果たしているのかを考えます。

123 お金の貸し借りについて・ 上級編(金融機関とのやりとり)

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

会社が業務を展開していくに当たっては、お金が必要です。十分な利益があれば、その利益を元手に業務を展開していくことができますが、お金が足りない場合、どうするか。金融機関からお金を借りることになります。金融機関からの融資を素材に、お金の貸し借りの法的な問題について考えます。
(※グループワーク)

127 お金がない!

長屋 幸世 (経済学部経済法学科教授)

お前の物は俺の物!…とはいかないのが、この世の中。借りたものはきちんと返さなければなりません。それは、お金だって同じ。

この講義では、二人の登場人物による、お金の貸し借りをめぐる物語を、法律の視点から解説します。なお、ストーリーは、皆さんの選択で変わります。果たして、どんな結末が待っているのでしょうか!?

法律

128 株式会社のしくみ

伊東 尚美 (経済学部経済法学科准教授)

高校生の皆さんのご両親は会社で働いている場合が多いでしょう。また、皆さん自身も多くは、高校、大学卒業後に会社へ就職することになるでしょう。このように、会社は、実は身近なものであるといえます。

この講義では、4種類の会社のうち、株式会社に的を絞って、株式会社がどのようにして設立され、運営されているのかについてわかりやすく説明をします。

国際関係

132 平和構築とは何か

野本 啓介 (経済学部経済学科准教授)

平和構築というのは耳慣れない言葉かもしれませんが、戦争・紛争・大災害などによって滅茶苦茶になってしまった国・地域を立て直していくための総合的な活動・支援を表します。世界中で紛争などが起こり多くの人々が苦しんでいます。紛争などが終わってもすぐに平和な暮らしが戻ってくるわけではありません。こうした国々では、物や施設が壊れたり失われたりするだけでなく、政治・経済・社会の仕組みやルール（目に見えないもの）が壊れたり失われたりしており、これが復興の大きな障害となっています。この講義では、紛争などの現状はどうか、紛争後の国・地域の状況はどうなっているのか、平和構築ではどのような活動や支援が行われているのか、社会のルールが失われるとどのように大変なのか、などについてお話しします。

129 高校世界史から法律学への架け橋

竹田 恒規 (経済学部経済法学科専任講師)

法律学の中でも、国家権力と私たちの関係を考察する公法学（憲法・行政法など）は特に、高等学校で学習する世界史と密接な関係にあります。公法学は、近代市民革命（代表例がフランス革命）の銃声の中で生まれたのです。世界史で学習する「過去」がどのように、「現在」の国家につながっているのか。「現在」の公法学が「過去」の世界史の何を基盤にしているのか。とかく、無味乾燥な「暗記」に陥りがちな歴史の学習を、「現在」の法学が直面している課題と結びつけることで、活き活きとした学習科目へと変えるお手伝いをします。

133 アメリカ留学と学生生活

高橋 孝三 (社会福祉学部教授)

アメリカ合衆国への留学を望む若者も多いと思われます。アメリカの大学では幅広い科目に渡りそれなりの奥深い勉強が求められ、相応の苦勞も多いです。筆者は、アメリカ合衆国で高等教育の大部分を受けました。コミュニティ・カレッジ(2年制)に始まり、4年制大学、大学院修士課程・博士課程と8年間の学生生活は、ワシントン州・マサチューセッツ州での貴重な経験となりました。更に研究・教職に就いたカリフォルニア州・マサチューセッツ州での10年以上の経験を踏まえ、アメリカ合衆国における高等教育の意義と実態について経験を基に語ります。

130 法は美しい街づくりの手助けになるのか?

竹田 恒規 (経済学部経済法学科専任講師)

法律学の中でも行政法は、私たちの日常生活と密接な関係にあります。魅力あふれる都市景観や豊かな農村風景。時には美しい景観を破壊する屋外広告物。静かな住宅街のど真ん中に突如として建設されるタワーマンション。街づくりは、法学とどのように関係しているのか。現在の法制度は美しい景観を作り出せるのか。そのようなことを身近な実例を参考に考えてみたいと思います。

134 世界の子どもの現状

～私たちに何ができるのか～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

世界には経済的に豊かな国がある一方で、学校に通うことができない子どもたちも数多く存在しています。この講義では子ども兵士と呼ばれる子どもたちに焦点を当てながら、現在世界が抱えている貧困や人権侵害、そして紛争等の問題について、話をしていきたいと思います。また、私たちが今何ができるのか、についても皆さんと共に考えていこうと思います。

131 家族をめぐるお金と法律問題の常識非常識

溝口 雅明 (短期大学部生活創造学科教授)

未成年者の「出来ちゃった結婚」や両親の「熟年離婚」、「不倫」、「交通事故」などをめぐって、どのような解決策があるのかをクイズ形式で、分かりやすく考えます。身近な生活問題、トラブルを知恵と法律と金銭の切り口から考え、豊かで堅実な生活を創造するヒントにしてみたいと思います。

135 平和学入門

～「戦争の世紀」から「平和の世紀」とするために～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

この講義では、第二次世界大戦後に体系化された平和学(peace studies)という学問について詳しく紹介したいと思います。単に戦争がなくなるだけではなく、貧困や人権侵害など構造的暴力もなくならねばならない、とガルトゥングという学者は述べています。グローバルな課題からローカルな課題までを扱う平和学の特徴についてお話し、皆さんと共に現在の世界が直面する課題を考えていきたいと思っています。

136 世界の平和学のパイオニア

～米国マンチェスター大学について～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

北星学園大学の姉妹校の一つであるマンチェスター大学 (米国インディアナ州)。この大学は1948年に米国で初めて平和学 (Peace studies) で卒業できる画期的なプログラムを作ったことで知られ、それは世界の平和学プログラムのモデルカリキュラムとなりました。
"I have a dream."の演説で知られるキング牧師とマンチェスター大学の関わり等についても話したいと思っています。

137 紛争解決学入門

～紛争現場の経験から学ぶ学問～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

紛争解決学 (conflict resolution) は、1989年の冷戦終了後、地域紛争の増大もあり急速に体系化された学問領域です。元来は平和学の学問の中で扱われることが多かった領域でしたが、最近では特に欧米で独立した領域として体系化されています。国際関係論、コミュニケーション学、そして心理学の知見も応用されている領域です。

この講義では、まずはこの領域で世界の研究と教育をリードする英国ブラッドフォード大学の紛争解決学プログラムについて紹介した後、具体的な紛争に関する事例と一緒に考えていこうと思います。

138 地球的に考えて地域で行動する (Think Globally, Act Locally) ために

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

地球的問題群 (global issues) には、環境や貧困、人権侵害など様々な問題があります。現在の世界は、国家同士の相互依存関係が深まっており、最近では「グローバル化」ということもよく聞くようになりました。地球を「宇宙船地球号 (global spaceship)」と見立てたケネス・ボールドウィングを講義のはじめに紹介しながら、皆さんとこのテーマについて共に考えていきたいと思います。

139 身近なものから日本と東南アジアの関係を考える

浦野 真理子 (経済学部経済学科教授)

東南アジアをはじめとするアジアの国々と日本のかかわりを身近な事例を中心に話します。日本は東南アジアから多くの自然資源、食べ物、繊維製品を輸入し、東南アジア諸国は、日本企業が生産する機械や自動車などを買ってくれるお得意様です。また、日本の多くの企業は、ベトナムなど東南アジアの労働力の安い地域に工場を建てています。

しかし、日本と東南アジア諸国との関係には、進出企業の労働問題、エビ、木材生産に伴う環境破壊など様々な問題も指摘されています。日本と関わりの深い東南アジアという地域との関係を勉強することは、私たちが暮らす日本の経済や社会についてよりよく知ることに繋がります。

教育

140 教育学入門

～子どもから大人まで、人の育ちを考える学問の魅力～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

教育学という学問は、単に学校教育や子ども、そして教師の育成等についてのみ扱う学問ではなく、例えば国際理解教育や生涯教育や社会教育など、大変幅広いテーマを扱う魅力的な学問です。皆さんもまさに今学校で教育を受けていますが、例えば習い事や学外の活動など、学校の外でも様々な経験をしたことがあると思います。

この講義では、「教育とは何だろうか?」「大人になるということは何を意味するだろうか?」について、教育学という視点を使いながら話したいと思います。

141 「大学の学び」の基礎となる「高校の学び」

～知識を身につける大切さ～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

この講義では、高校での学び方と大学での学び方の違いと共通点についてお話したいと思います。また、大学における「ゼミ」の意義や活動内容について私自身の経験を皆さんと共有してみたいと思います。大学に進学するにあたって、今取り組んでおくべきことについて、中学校、高校、そして大学の教師としての経験を通して、皆さんに今後のためのヒントを与えることが出来ればと思います。

142 大学で学ぶ意味:社会科学をとおして社会の仕組み・つながりを理解する

野本 啓介 (経済学部経済学科准教授)

大学では何を学ぶのでしょうか。学部や学科はどのように選んだらいいのでしょうか。一口に大学といっても、学問分野 (学部・学科) によって内容だけでなく、その目的なども異なります。経済学、政治学、法律学、国際関係論 (学) などの社会科学の分野では、一言で言うと社会・世の中の仕組み・つながりを理解することが目的だといえます。

この講義では、社会科学の分野について、どのようなことを何のために学ぶのか、これらを学ぶとどのような力がついて、どのような職業と結びつくのか、他の学問分野との違いは何か、などについてお話しします。

143 大学教育とは何か?

楠木 敦 (経済学部経済学科専任講師)

大学教育がどういうものであるのか、またはあるべきかということに関しては、さまざまな見解があります。

この講義では、その多くの見解の中のひとつとして、経済学者としても有名なジョン・スチュアート・ミルの大学教育論を紹介します。具体的には、ミルのセント・アンドルーズ大学名誉学長就任講演を採り上げます。ミルの考える大学教育の理念に接することが、高校生のみならず、大学教育の意義を考え始めるきっかけになればと思います。

教育

144

若者が大人になるには

～成長への道筋と夢ある進路決断のために～

高杉 巴彦 (文学部教授)

若者が社会に出ていく時までに、どのような大人になっていることが求められるのでしょうか。社会から求められる青年像の特徴に照らし、高校・大学を通じて「学ぶ」ことで人生がどう変わるのかを考えます。スキルや技術・資格修得以外に大切なものは何か。専門的力量的前提となる課題解決力や創造力、アイデンティティや自立的思考の確立とともに、「地球市民」として人類的課題を解決する姿勢 (global citizenship) が問われています。

私たちの暮らしを支える様々な仕事、その多様な進路をどう選ぶのか、またどんな学問があるのかを考え、自己実現を達成したい夢と、進路や将来像と結びつけた学力形成のあり方について考えましょう。

145

「平和」とは何か。

～平和を築くために、私たちにできること～

高杉 巴彦 (文学部教授)

「戦争」がなければ「平和」ですか。戦争には至らなくても、飢餓・貧困・人権抑圧や社会的不平等、環境破壊、教育や医療の遅れなどが要因で、本来人間の持っている能力を全面的に開花できず、戦争の元となる紛争が発生し、「平和」とは言えない状態が生み出されています。これは遠い世界のできごとではなく、実は私たちの暮らしとも大きくかかわっています。では平和な社会、平和な世界を創り出すために、私たちに何ができるのでしょうか。どのような物の見方・考え方をすればよいのか、また世界の異なる国・地域の人々 (異なる考えの人々) との交流でどんな違いが認識できるのかを学ぶなかで、みんなが同じではない素晴らしさ、違った考えの人と協同する楽しさを学びます。

146

教育におけるテクノロジーの役割: 未来の学校はようになる?

金子 大輔 (経済学部教授)

現在、教育の世界ではさまざまなテクノロジー (技術) が利用されています。もちろん、コンピュータやインターネットなどの情報通信技術だけがテクノロジーではありません。テレビ、映画、黒板、チョーク、紙の教科書もテクノロジーです。実際には、教育はテクノロジーの発展と共に大きく変わってきたと言えるでしょう。

本講義では、教育におけるテクノロジーに注目して、その歴史や変遷を紹介します。また、新しいテクノロジーを利用している教育現場の事例なども参考にしながら、未来の学校の姿をみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

147

先生のおしごと (教職入門)

田実 潔 (社会福祉学部教授)

○教師になるにはどうしたら良いの?
＜成績優秀じゃないとダメ?＞

○先生のおしごとって何?
長い休みや土・日休みでうらやましい?

○どんな教師が求められているのでしょうか
求められる教師像って、本当に理想の教師像?

情報

148

eラーニングシステムを使った学習体験

中嶋 輝明 (文学部教授)

必ずしも教室にいなくても、Web上に用意されている教材を使って好きなときに、好きなペースで学習を進める、eラーニングとよばれる学習が広がってきています。eラーニングシステムを使うと、学習教材の閲覧、小テストの実施、掲示板への書き込み、レポートの提出といった作業を行うことができます。このeラーニングシステムを体験してみましょう。

149

インターネットと私たちの生活

～ソーシャルメディアによる新しい「つながり」～

金子 大輔 (経済学部教授)

有名な人のブログを読む、LINEで友人とチャットを楽しむ、ニコニコ動画で生放送を見る…ここ数年でインターネットは誰でも気軽に利用できるようになりましたが、パソコンやスマートフォンの普及により、とくに「ソーシャルメディア」が注目を集めるようになってきました。たとえばオバマ前米大統領は選挙活動にTwitterをうまく利用していましたし、アラブ諸国で起こった革命の背景にはFacebookがあったとも言われています。

この講義では、急速に発展を続けるインターネットの世界で現在何が起きているのかについて、ソーシャルメディアを中心に紹介します。そして、それらの新しい技術が私たちの生活にどのような影響を与えるのかについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

その他

150

ピョンチャン冬季オリンピックのもう一つの楽しみ方

星野 宏司 (経済学部教授)

2018年2月に冬季スポーツの最大スポーツイベントがピョンチャンで開催されます。オリンピックは全世界の人々が2回から3回は必ず視聴するイベントであり、私たちの暮らしを北海道をはじめとした積雪寒冷地域の人々のみならず、全く雪の降らない地域の人々にとっても、関心の高いスポーツイベントです。

そこで、本講義ではテレビをはじめ、さまざまなメディアを通して配信される競技や種目における観戦のポイントや競技成績以外の観点から解説を行います。特に、冬季大会は夏季大会にくらべ競技スピードが格段に速いことから、競技成績と密接に関わるアスリートと道具の関係やアスリートの技術に焦点を当てて解説を行い、スポーツ科学の活用の方策について学ぶことをねらいとしています。

151

困難を乗り越えて生きること

～がん体験者が教えてくれるいのちと人生～

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

2人に1人が一生のうちで一度はかかる「がん」。がんを体験した人の語りから、病いを経験するとはどういうことか、病いを乗り越えて、あるいは病いとともに生きるとはどういうことか、そこから私たちがいのちや人生について何を学ぶことができるのかについてお話しします。

152 地球温暖化と過去の気候変動

高橋 孝三 (社会福祉学部教授)

人為起源の炭酸ガス放出等により温室効果が働き、地球の大気温度上昇が問題となっています。地球の歴史上の過去にも温暖期は幾つかあった事も分かっています。また、温暖期と寒冷期が定期的に繰り返す氷河期・間氷期サイクルの様な周期も知られています。氷河期・間氷期サイクルは、地球外からの太陽放射エネルギーに起因する「外因」の変動で説明でき、この変動は天文学的に説明出来ました。ただし周期性は、10万年であったり、4万1千年であったり過去には変化して来ました。このような地球の気候変動について、現在と過去の事例を学習することは、北星学園の目指すリベラルアーツ教育(全人教育)の一環でもあります。

2 入学前教育

「学科別入学前教育の実施」

(趣旨) 入学試験を媒介にして高校と大学の接続を考える場合に、高校における教育・学習の到達点と大学における教育・学習の出発点を滑らかに接続することの重要性が指摘されてきました。大学において期待される学習と高校までの学習のギャップを埋めるために考案されてきたのが「入学前教育」です。各大学が多様なプログラムを用意していますが、北星学園大学もまた、これまで各学科の独自の取組として、特に推薦入学生を中心的な対象にして実施してきました。この実績を踏まえ、本学では2008年度実施の入試結果から本格的に「高大連携プログラム」として実施しております。

- ① 推薦入学等で入学が決定した生徒は、その時点から本学各学科の学生であるとの捉え方で、学科との接触を図る。
- ② この接触は、大学と生徒の関係だけでなく、同時に当該高校の教員との関係を意識した形で進める。
- ③ この関係は、「大学と生徒の関係」及び「学科と生徒の関係」の二重の形で進める。
- ④ 推薦入学等で入学が決定した生徒には、大学図書館の利用の便宜を図る。

以上のような考え方で、現在の各学科での計画の一覧を掲載します。高大連携の一貫としての「入学前教育」の実施にご期待ください。

Hokusei Gakuen University

文学部英文学科

《これまでの実施状況》

推薦入学生を対象として、英語力増強のための入学前教育をおこなっています。具体的には、推薦図書を提示し、これをもとに自主学習を促しました。その主な目的はTOEFLの得点力をつけることと、初年次の本学の教育に無理なくついていくことのできる学力の獲得です。合格通知を受け取ってから入学までの時間を有効に活用し、また大学での学習意欲を喚起するものとして役立っています。

《2017年度の予定》

目的:初年度の英文学科学生に求められるのは、英語母語話者によって英語で行われる各種基礎英語教育ならびに、英文学科専任教員が担当する基礎演習、英文法クリニック等の授業に支障がない程度の総合的英語力を保持していることとなります。よって、学生各自がオールラウンドな英語の基礎力を獲得することを目標とします。

方法:英語力の増強に関しては、できるだけ多くの英文に触れることが必要です。よって、推薦入学の学生全員に向け推薦図書(TOEFL用参考図書)、および読書課題を提示し、自主的学習を促します。また、英語力向上に向けての学習動機を喚起するために、以下のような情報開示をあわせて行います。(1) 入学後すぐにTOEFLテストにより英語力の測定が行われること。(2) 入学後、英語母語話者による会話テストが行われ、オーラルイングリッシュのクラスは、その結果による能力別に編成されること。

文学部心理・応用コミュニケーション学科

《これまでの実施状況》

入学形態にかかわらず、合格者全員に対して、入学後の早い段階に「日本漢字能力検定試験2級」の模擬試験を実施しています。また、学科独自の新入生オリエンテーションを実施し、学生生活のスタートをサポートしています。希望者に対しては、英語及び漢字検定対策講座、卒業研究発表会、心コミ・ラウンドテーブル(卒業生との交流会)への参加を勧めています。

《2017年度の予定》

目的:本学科の授業ではレポート作成の機会が多く、授業によっては毎週のようにレポート課題が出されます。また、最終学年には28,000字以上の卒業研究を提出しなければならず、かなり高い日本語能力が求められています。そのため、これらの基礎となる一定水準以上の漢字能力の習得を入学前に薦めています。また、本学科では言語能力・コミュニケーション能力の育成に力を入れており、語学に関する学外の検定試験に対して単位を認定しています。言語・コミュニケーション能力の育成には時間がかかりますので、大学入学前から勉学に取りかかることを推奨しています。なお、入学前5年前までに合格した検定試験も単位として認めています。

方法:検定認定の群(分野)は、「英語」「独語」「仏語」「中国語」「韓国語」「日本語」「漢字」に分かれています。このうち受験者の多い漢字検定については、新入生全員に対して、入学後の早い時期に「漢字能力検定2級」の模擬試験を実施することを通知し、その準備をしてもらいます。また、英語と漢字に関しては、検定対策講習会を開講しています(希望者のみ)。入学後や卒業後のイメージづくりのために、卒業研究発表会やラウンドテーブルへの参加も勧めています(希望者のみ)。

経済学部経済学科

《これまでの実施状況》

少人数教育を核として「<知>の魅力に触れ、なりたい<自分>に出会い、<社会の主人公>になろう。」を掲げてきめ細やかな指導をおこなっている北星経済学科では、指定校推薦入試・公募推薦入試の合格者が、大学入学前のやや長い期間を充実した準備期間とすることができるよう、2007年度より入学前教育プログラムを展開しており、10年が経ちました。

経済学科では、2015年度まで、入学前の期間のアクセントとなるような集合研修の機会を設けていましたが、2016年度は、e-learningシステム(Moodle)により継続的な自宅学習を促すことに主眼を置いたものへと入学前教育を衣替えしました。これは、2011年度に集合研修後に実施し、先駆的取り組みとして朝日新聞の全国版紙面でも紹介されたものをさらに手直したものです。

また、読書課題は2007年以来、継続して指定をおこなってきています。

《2017年度の予定》

目的:経済学科での学びのためには時事問題への関心が必須となります。そのために、経済学科では、1年次に「新聞活用」プログラムを用意していますが、推薦入学者のみなさんにはニュースに興味をもつきっかけとして、時事ワークシートを使用した入学前教育に取り組んでもらうことにしています。

また、大学で学問を探究するにあたって必要となる読書力を培うために、読書課題も課しています。2016年度は、村上陽一郎『新しい科学論』（講談社ブルーバックス）、内田樹『下流志向』（講談社文庫）、広井良典『ポスト資本主義—科学・人間・社会の未来』（岩波新書）、高橋源一郎『僕らの民主主義なんだぜ』（朝日新書）、エーリッヒ・フロム（鈴木晶 訳）『愛するということ』（紀伊國屋書店）の5冊から1冊を選ぶこととしています。

方法:「新聞活用」プログラムでも使用している時事ワークシートをピックアップしてe-learningシステム(Moodle)で提供し、直近のニュースや時事用語に関心を寄せさせるようにしています。満点になるまで何度でも解答できる形式を採り、ニュースについて調べるよう促しています。

読書課題については、入学前の時期に読んでほしい図書を経済学科の教員が推薦し、そのリストの中から選び、読書感想文を書くものとしています。

経済学部経営情報学科

《これまでの実施状況》

経営情報学科では、公募推薦および指定校推薦の入学予定者を対象として、e-Learningシステム（「CEAS(シーズ)」）を活用した入学前教育を実施しています。入学前教育で取り上げる用語は、「経営・金融分野」、「マーケティング分野」、「会計分野」、「情報分野」の4つの分野に関連する用語であり、すべてが経営情報学科で学ぶ上で最低限必要とされる基礎的な用語となっています。これらの基礎的な用語をもとに、各分野20題ずつ出題（4分野×20題＝合計80題）し、入学するまでに各分野の基礎的な用語を効率的に学習することができるように進めています。

《2017年度の予定》

目的:入学前からe-Learningシステム（「CEAS(シーズ)」）の操作に慣れるとともに、経営情報学科で学習するにあたって必要とされる基礎的な用語について理解し、大学入学後、大学・学科での学習にスムーズに進むことができるようにすることを目的としています。

方法:引き続き、「CEAS(シーズ)」と呼ばれるe-Learningシステムを活用した入学前教育を実施する予定です（インターネット環境にない場合は、郵送にて対応する予定です）。具体的には、次のような方法で入学前教育を進める予定です。

- ①e-Learningシステム（「CEAS(シーズ)」）の活用により学習する。
- ②「経営・金融分野」、「マーケティング分野」、「会計分野」、「情報分野」の4つの分野に関連する内容を選択問題形式により学習する。
- ③各分野20題ずつ合計80題（4×20＝80）の選択問題を出题する。
- ④1月から2月下旬までの入学前期間を4つの期間に分け、1期間につき20題（4分野×5題）ずつ解答する。

経済学部経済法学科

《これまでの実施状況》

経済法学科では、これまで、学科の教員が、新入生に是非読んでもらいたい「お薦め本」のリストを作成し、入学前に配布してきました。その一例を紹介すると、碧海純一『法と社会』（中公新書）、J.S.ミル『自由論』（岩波文庫）、大村敦志『父と娘の法入門』（岩波ジュニア新書）、宇沢弘文『経済学の考え方』（岩波新書）、大竹文雄『競争と公平感』（中公新書）、釘原直樹『人はなぜ集団になると怠けるのか』（中公新書）、増田辰良『1次関数で学ぶ経済学』（大学教育出版）などです。

《2017年度の予定》

目的:経済法学科のカリキュラムでは、1年生から経済と法律の専門科目が目白押しです。こうした専門科目は、白紙の状態からスタートするのではなく高校時代に学んだ数学や政治経済、情報などの知識や技術を基礎にして進められます。入学前教育は、新入生が高校生の《学習》から、大学生の《学修》へとスムーズに移行できるよう、学科の専門科目の前提となる知識や技術について復習・補習することをねらいとしています。

方法:

(1)経済法学科では、入学前教育として、インターネットを活用した数学のeラーニング(遠隔授業)を導入しました。というのも、現代経済学を学習しようとすると、道具として数学が不可欠ですが、本学科に入学してくる学生諸君のなかには数学を苦手に行っている学生が少なくないからです。経済学の学習で使う数学の基礎となる高校までの数学の能力を、eラーニングのための専用ホームページにアクセスすることで、確かなものにしてもらおうと考えています。

(2)推薦図書を読むと、きっとわからないことがいろいろ出てくると思います。入学まで待てない方は、eメールやお手紙で担当者まで質問してください。適切な専門の先生に回答してもらいます。

社会福祉学部福祉計画学科

《これまでの実施状況》

推薦入学者を対象に、専門課程での勉学に関係する本のリストから2冊を選び、それぞれについて内容をまとめ、レポートを作成してもらいました。

学科の教員全員がこれらのレポートを回覧・熟読した上で、学生の問題関心の動向を把握しました。

《2017年度の予定》

目的:入学前の期間を利用し、福祉計画学科の専門課程での勉学に関連する時事的なテーマについて、学科の選定するリストから2冊を選び、その文献を読み、考案・評価することを練習します。

方法:まず、福祉計画学科の指定するWebサイトで提示している「大学で勉強するための本の読み方」の説明を聞いて、本を読むポイントについて学習します。そのうえで次に、リストから2冊を選び、しっかりと熟読します。そして、その重要な箇所を中心にさらに考察を深めて、それぞれ1,200字程度でレポートに書き、提出します。提出されたレポートについては、学科教員で文章の書き方等をチェックし、考察のポイント等についてコメントをいれて、返却します。これによって、2冊の本をより深く、また広い視点から読み込み、自分なりの評価ができるように練習します。

社会福祉学部福祉臨床学科

《これまでの実施状況》

2007年度より推薦入試合格者を対象に、入学前教育を実施している。内容は、学科教員が、福祉関係の課題図書を選定し、推薦入試による入学予定者に対し「課題図書一覧」を送付し、入学予定者は、その一覧から1冊を選び、理解した内容と自分の考えを1,600字程度にまとめ、提出します。その後、提出されたレポートを、図書を選定した教員が添削講評し、コメントを付けて本人に返送します。この課題により入学決定後の数ヶ月間に福祉に関する学習への動機付けを維持し、添削指導と講評により、読解力や文章表現力・考察力を養うことをねらいとしています。また、文書・メールによる随時の相談の機会を提供しています。入学後は、「福祉臨床入門」(1年次前期)の必修科目を用意し、入学前教育との継続性を確保しています。

《2017年度の予定》

目的:出張講義については、社会福祉、ソーシャルワークに関心を寄せる高校生に対し、さらなる興味・関心の拡大、大学において専門的に学び、研究することや、大学卒業後の将来像のイメージ形成を目的としています。

入学前教育については、入学決定後の数ヶ月の間で、福祉臨床学科で学ぶモチベーションを維持・強化し、大学生として学ぶための読書習慣を身につけること、またレポートの作成、添削指導と講評により、読解力・文章表現力・考察力を養うことを目的としています。さらにサブパンフレットや大学ホームページ「シラバス」閲覧の勧めにより、学科の教育内容に対する事前理解やイメージ形成を図ることを目的としています。

方法:出張講義については、学科教員の専門領域を基本にし、上記目的を達成するために、高校生にとってわかりやすく、かつ、興味・関心の拡大につながる複数の講義テーマを用意しています。

入学前教育については、入学予定者に対し、学科教員選定による「課題図書一覧」から選定し、その内容と自らの考えをレポートとして1,600字程度にまとめ、提出させます。提出されたレポートを学科教員が添削し、コメントを付けて本人に返送する方法をとっています。

また、「福祉臨床学科サブパンフレット」や大学ホームページ「講義要項」の閲覧を奨励し、学科の教育内容に対する事前理解やイメージ形成につなげるとともに、文書やメールによる相談体制を用意しています。

社会福祉学部福祉心理学科

《これまでの実施状況》

福祉心理学科では、これまでは推薦合格者に対して、全教員がそれぞれ推薦する図書の一覧を作成し、送付してきました。そこでは、読み手の感性を引き出すような図書や、難解ながらもじっくり時間をかけて自分自身と対峙できるような図書など、推薦図書のジャンルを幅広く設定されていました。入学前の大切な時間は心理学の領域にのみとられず、むしろ広い視野からいろいろな物事に触れて考える時間にしてほしいと考えています。そのことから義務としての読書は適切でないとの考えから、読書後の感想文の提出等の課題は求めないことにしていましたが、2011年度から下記の目的と方法に変更しています。

《2017年度の予定》

目的:広く深く考えるということが大事であるという考えは従来通りですが、2011年度より、大学における心理学教育に結びつくトレーニングになる課題を課すことにしました。それは「データを正しく取りまとめ、的確に自分の言いたいことを表現する能力」を高めることです。この能力は、大学入学以降に非常に重要な能力になります。最終的には卒業論文でこの能力の程度を試すこととなりますが、まずその第一歩となる易しい課題を解くことにより、大学における心理学教育になじんでいただくのが目的です。

方法:新聞記事や評論をもとに、それらの文章の要約をし、その内容に関する自分の意見を適切に表現することを課題とします。一定の字数内で文章にまとめ、レポートを提出してもらいます。それに対して、学科教員がそのレポートを添削し、皆さんに返送します。

短期大学部英文学科

《これまでの実施状況》

2010年度以降、指定校推薦入試及び自己推薦入試の合格者に対して、短大での授業に備えて語彙習得の強化を図るために課題テキスト1冊を完璧にこなす課題を課してきました。

《2017年度の予定》

目的:短大英文学科は、英語そのものを目的にするのではなく、英語を道具として使いこなせる学生を育てることを目標としています。ですから早めに学科の特性に慣れる上で、最低限の英語基本語彙の課題を積極的にこなし、入学後に備えてもらうことを目的とします。

方法:1年次の学科の教科科目に関連し、英語に即応できることを目的に、入学後の波及効果を狙った語彙中心の課題を実施することになります。

この課題は、テキスト「WORD POWER 1500」(オックスフォード出版局)を完全に一冊解答し、仕上げることで、基本英単語を日本語を介さずに英文の文脈を通して、語彙の理解・習得を狙ったものであります。採点結果は、担任教員(アドバイザー)を通して、入学後に学生へ知らされ入学以降の英語学習(スタディスキル)の一助になるものです。

短期大学部生活創造学科

《これまでの実施状況》

生活創造学科の入学者のうち、推薦入学制度(「指定校推薦」と「自己推薦」)による入学者の割合は、70~80%と高い割合を占めています。入学前年の12月に入試と合格発表が行われてから4月までの間、短大入学に向けて有意義に過ごすことができるように、本学科では入学前教育として以下の取り組みを実施し、成果をあげています。

(1)課題レポートと成績証明書の提出

12月~3月末までの期間で、以下の課題の提出を求めています。

- ①**推薦図書を読んだレポート作成:**推薦合格者全員を対象に本学科での学習に関連する約30冊の推薦図書の中から2冊を読み、それら各々についてA4レポート用紙2枚程度に要約と感想を書いて、提出する課題です。一般入試合格の入学予定者には、3月の一か月間で1冊の読書レポートを課しています。5月にはクラス担任がコメントを書き入れて返却します。
- ②**フィールドワークレポート作成:**上記の2冊の読書レポートの1冊分として、自らの直接体験をもとにしたレポート作成を選択できます。これまでのテーマは「映画ポスターの静と動」、「住まいの調査」、「聞き書き:それぞれの18歳」などです。
- ③**新聞社説を読んだレポート作成:**推薦合格者全員を対象に、興味関心を持った新聞社説を1点取り上げ、A4レポート用紙の一枚目に貼り付け、2枚目のレポート用紙に感想・意見をまとめて提出させています。

(2)インターネットを利用した教材と情報の提供

①E-learning「入学前教育」コースの開設

2011年度より、1月~3月の期間にコースウェアMoodleで「入学前教育」コースを開設して、入学後の学習に役立つ基礎的な知識を確認する自動採点問題を提供しています。毎週、一つずつトピックを増やしていく方式で、継続的な学習を促します。

②入学前教育の課題と入学準備に関する情報提供

「生活創造学科入学直前メールマガジン」を発行しています。

《2017年度の予定》

目的:

- ①短大での学習の基礎となる高校までの学習の定着と苦手科目の克服・復習の促進。
- ②本学科での学びのキーワードである生活の知的創造のために、現代社会の有りようやできごとに関心を持つこと。

方法:これまで実施してきたことを継続します:(1)課題レポート (2)e-learningを利用した基礎学力確認の「入学前教育」コースの提供 (3)推薦入学予定者向け「生活創造学科入学直前メールマガジン」を発行による情報提供。

「高大連携プログラム」に関する問い合わせ・申し込み先

1. 高大ブリッジ講義(出張講義)

北星学園大学の教員が高校の教室に赴いて大学での「学び」とはどういうものか、大学にはいかなる「知と技」があるのかに触れていただく機会を提供しています。

詳細・申込方法⇒1～23ページ

2. 入学前教育

本学における各学科別の入学前教育実施状況です。

詳細⇒24～28ページ

入試課

**代表 TEL (011)891-2731
FAX (011)894-8383**

北星学園大学高大連携プログラム

高大ブリッジ講義(出張講義)申込書

申込日 年 月 日

送信枚数 /

高校名

連絡担当者名

TEL () -

FAX () -

希望講義番号		講義担当教員名	
希望講義名		希望日時	第1希望 月 日()時間 : ~ :
			第2希望 月 日()時間 : ~ :
			第3希望 月 日()時間 : ~ :
受講生徒	学年	組	名

希望講義番号		講義担当教員名	
希望講義名		希望日時	第1希望 月 日()時間 : ~ :
			第2希望 月 日()時間 : ~ :
			第3希望 月 日()時間 : ~ :
受講生徒	学年	組	名

希望講義番号		講義担当教員名	
希望講義名		希望日時	第1希望 月 日()時間 : ~ :
			第2希望 月 日()時間 : ~ :
			第3希望 月 日()時間 : ~ :
受講生徒	学年	組	名

ゼミ形式を希望する場合

使用機材(ご用意いただけるものを○で囲んでください):

パソコン(パワーポイント)		プロジェクター		スクリーン		スピーカー		OHC	
黒板		ホワイトボード							

その他講義展開上の留意点:

講義上の希望事項:

案内図



Hokusei Gakuen University

北星学園大学

北星学園大学短期大学部

札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

TEL011-891-2731 (代表)

交通の便

- 市営地下鉄東西線【大谷地駅】下車、
一番出口を出て左手サイクリング
ロード通学路を研究棟(8階建)を
目標に西へ徒歩5分。
- 札幌市内方面からタクシーで来学
する場合、南郷通り大谷地神社信
号を右折し約200メートル。

